

東海道名所圖會

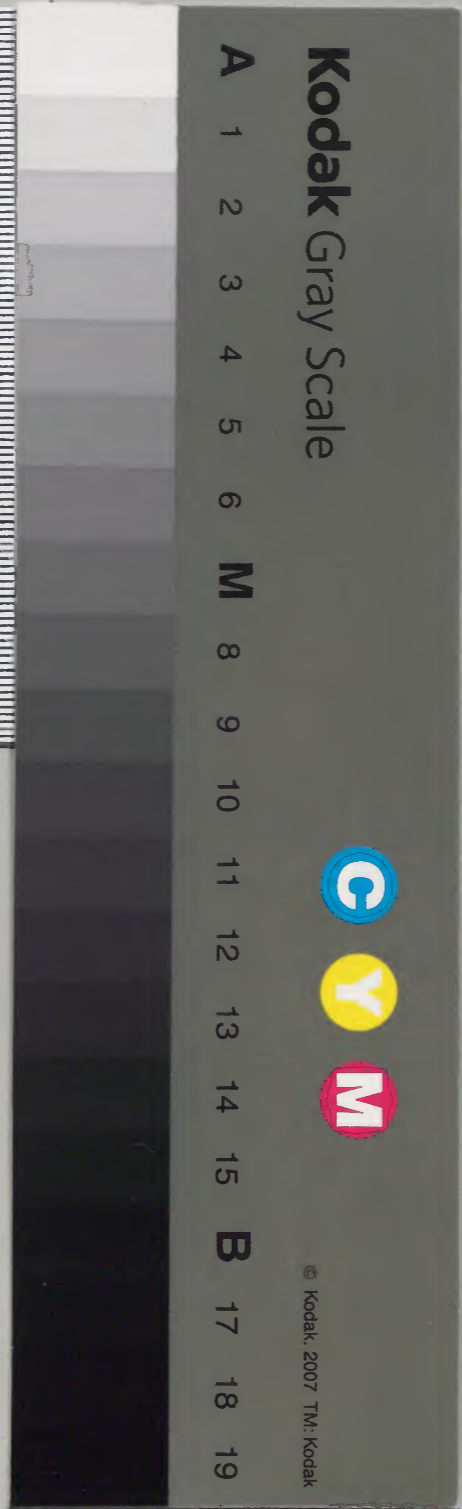
一

					和書門
			八七六		
		一八七			
六册	架	函	號	類	

270

庫	文	閣	内		
一七二函			八七六		和書
二一架		六册	號	類	

内閣文庫	
番號	和 8876
冊數	6 (1)
函號	172 270



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

和書印

和書印

和書印

少神一天皇御宇十年乙未秋
川原の宮將軍ありし一葉東海に
乃名をいふをいへておのりお母むを
たの平八守の方へ奉職命をよて
阿比方はくまのあはしをいへて
葉の一方の御宇十年乙未の秋

漢語のまじりたるものなりては
ふも書翰を以てしは、
かゝるものなりては、
とていふは、
一、あれは、
昔もえりては、

御序

みづかき、
あつかり、
箱のつぎ、
東の、
乃、
よ、

あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば

御座り候へば

あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば
あはれなる御座り候へば

凡例

一 東海道ハ京師よりそぐ先多江戸小到付都く十州小豆其
驛洛と標や一 名所古跡神社佛院と圖會と次驛と圓圍
との題し行程ハ其下小署考

一 海道ハ神社を延喜式神名帳ハ載ハ選んて記ハ郷里ホ
生主神あり多くハ勸修の神祠ハ是ハ除ク然モ之ハ度ハ
到そハ攝人多載ハ寺院ホ亦ホ准ハ古刹と擇んて記ハ末
の濱寺道場ハ致ハ際限ハ之ハ省ク又省クハ略畿内名所
圖會ハ例ハ倣

一 東海道より五里七里入るの地ホ亦名神名刹ハ是ハ
尾州津島天王之州風来寺遠加秋葉山相州大寺江嶋
鎌倉等あり然ハ是ホ准
渾く方位と示と之ハ茶位ハ循ハ多某の東ハ里某の西ハ町ホ

わつと證ハ或ハ左の方右の方と京師より東向ホ卦ハ旅者の
左右あり

一 引書ハ古来流布の紀ハ和歌代ハ撰集詩賦ハ名家の文集ハ
引據ハ軍談ハ其要ハ撮んて記ハ神廟梵刹の由縁ハ社人
寺僧の記ハ其勳ハ又村翁野史の諸ハ是ハ載ハ事あり

一 葉鴨長明道之記同海道記とハ二書あり 是ハ校ハ子ハ
長明ハ兼之五年十月十二日鎌倉ホ下向ハ將軍實朝公ホ謁
法善堂ホ懐舊の和歌ハ詠ハ東艦ホ見ハ厥后又年と歷
建保四年六月八日秋二十四日來りて卒ハ此東方文記誦説ハ詳ハ

録ハ初の長明道之記ハ仁治二年八月十日來出ホあり長明示寂ハ後
廿六年と歷ハ平ハ之ハ多田滿仲ハ代孫從五位下伊智守源光ハ
の紀ハ之ハ和奇ハ其本集ホ入リ光行と記ハ之ハ拾葉ホ其書ハ
源親リと署ハ親ハ光ハの長子ホ人ハ其圖之ハ卷中ホあり

光り紀りと記し長明と記し又海道記より貞應三年卯月上旬
 花洛と出ると書るを以て長明入寂の後七年を歴て秋鎌倉志にも
 和次長明ありと詞後人の賛とる所ありと書るを真不詳の同體
 向ありと長明ありとる事明あり長明の無名抄方丈記の二書
 り外あり又兼好のほしく竹下長明四季物語に引く其頃の書へ
 亡びるもの人今書る四季物語の二書後人の准(准)能く偽書なり
 一 一ありとる古人の紀り名地の圖海道中記の致治より後とる
 海道原古今政とる舊書とる不惑(不惑)入事多し予(予)巡りて今時の
 見圖公記に猶脱漏(猶脱漏)後人の補遺(補遺)侯の
 一 一画圖(画圖)糸師江戸及び諸邦(諸邦)北(北)寄合書(寄合書)之故(故)小画(小画)毎(毎)小姓名(小姓名)下(下)章(章)あり
 細圖(細圖)浪速(浪速)竹原(竹原)春泉(春泉)齊(齊)の(の)一筆(一筆)ありて(ありて)姓名(姓名)公記(公記)とる

東海道名所圖會卷之一

目錄

平安城	洛東風系	三條橋	栗田
日正	山科	四宮河原	小園城
追分	相阪山	走井	遠坂園
山邊兩國場	禪丸祠	奥寺小町趾	山神森
奥清水	奥明神祠	奥小川	日向山
安養寺	世喜寺	顯證寺	大津
大津宮	練貫水	又檀道	長等山
三井寺	瀨羅明神	護法善神	寶藏
唐院	護摩堂	新山王	教待仙人
圓備院	住吉祠	經藏	大慈院
八幡樓	安樂行堂	御尾八幡	村雲樹
常盤寺	安樂石塔	龜鳴橋	中院
淨明水	早尾祠	北院	南院
	二王門		
	三井十景		
	三尾明神		
	御井		
	燈幢石壇		
	正法寺		
	尾藏寺		
	龜丘		
	三井十景		
	北院		
	中院		
	南院		
	寶藏		
	教待仙人		
	大慈院		
	村雲樹		
	中院		
	南院		

智澄大師傳説
友皇子傳

滋賀花園

志賀津

梵釋廢寺

唐崎一松

櫻屋

聖女祠

北比祠

八王子宮

神祖御宮

真葛原

興成宮

石占井

妙見祠

歡喜石

鼠祠

走井大師堂

八柳

經子宮

西教寺

浮御堂

比良

菊濱

芭蕉堂

栗津野

兼平墳

同御影銘

志賀山越

黒主祠

明智先秀城趾

日吉山王神社之宮

二宮

客人宮

三宮

四屋若宮

磯成宮

同祠

大將軍祠

和孝和行塚

彼岩石

走井宮

滋賀院

山王系圖

朱迎寺

勾當内侍古蹟

抄出濱

大章會館總責

膳所

栗津杜

志賀都

滋賀浦

貫之祠

唐崎

極武天皇御塔

龜井

十禪師宮

中七社

桓武天皇御廟

南若宮

比叡辻

大寺井

百枝祠

大政所

地藏堂

猿塚

神宮

比叡山

苗麻神社

大伴櫻

四宮社

松本渡口

栗津里

志賀里

滋賀大輪田

崇福廢寺

幸崎神祠

止土濃

聖真子宮

夢妙幢石

下七社

慈眼大師廟

登町若宮二社

若宮

生源寺

小立月會岡

王子宮

早尾社

塔下惣社

神路山

四明嶽

堅田浦

真聖入江

精大明神祠

義仲寺

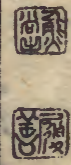
陪膳濱

栗津松原

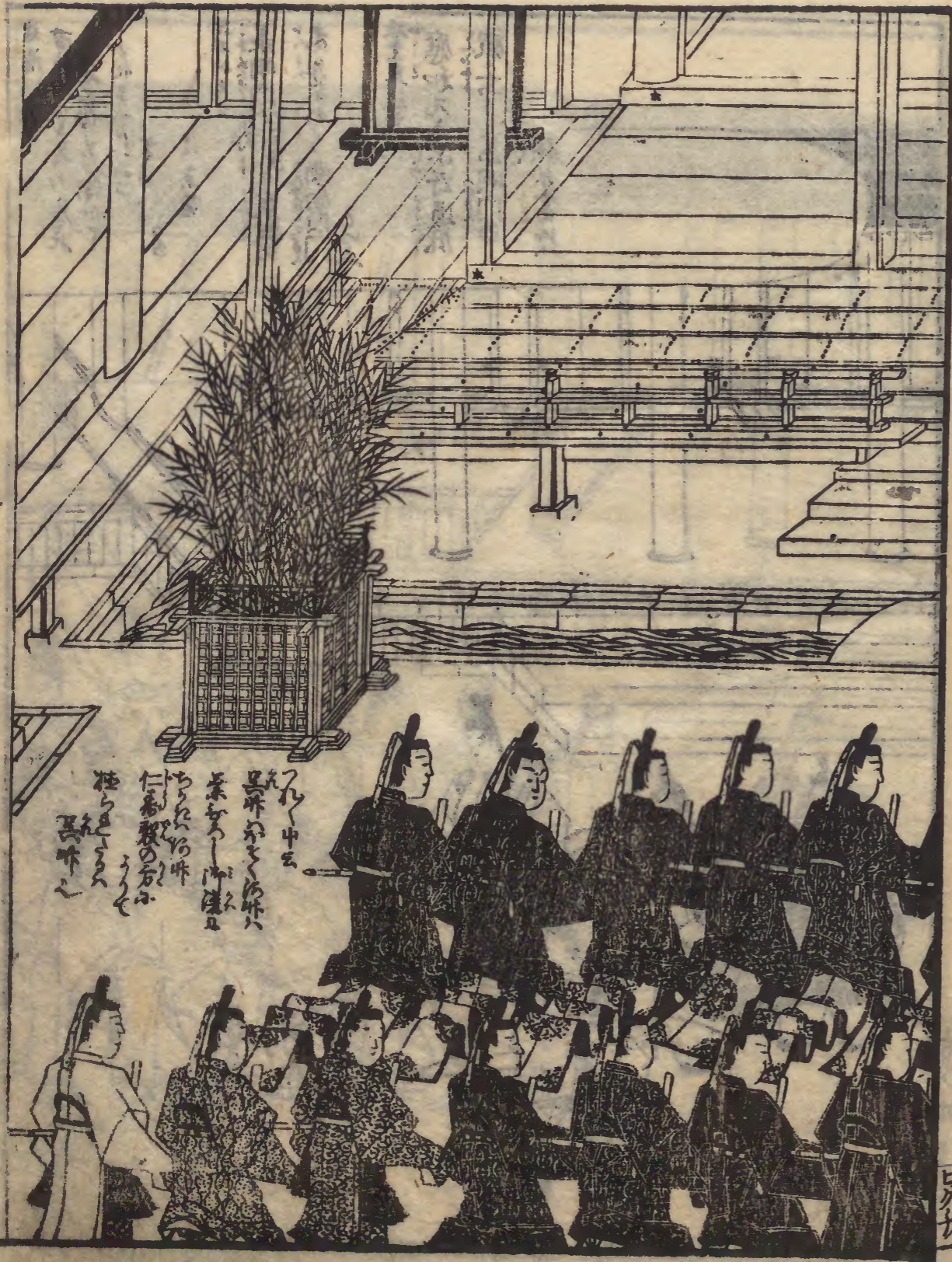
一壇之一

雖練石補元鼈足立極清濁其化戾浩劫浩劫
出外環八德大緋浩劫之中生一大桑木延漫
數百里所稱畜艱風土詭適曼也此墟曠茫而
無疆合直關以東到京坻數百里而奇魁者有
奇者有從者有秀者所稱籬島子圖繪迺是也
當與縮八荒於赤跡閒竊因睫土中春詒賈不
當與就金玉狗馬玩好而趨勢利者得焉云

箕山 熊谷尚士識



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '王' and '山']



仁義殿の
 ちんちん
 茶を
 呉
 中
 仁義殿の
 ちんちん
 茶を
 呉

ヒクナ



小朝祥

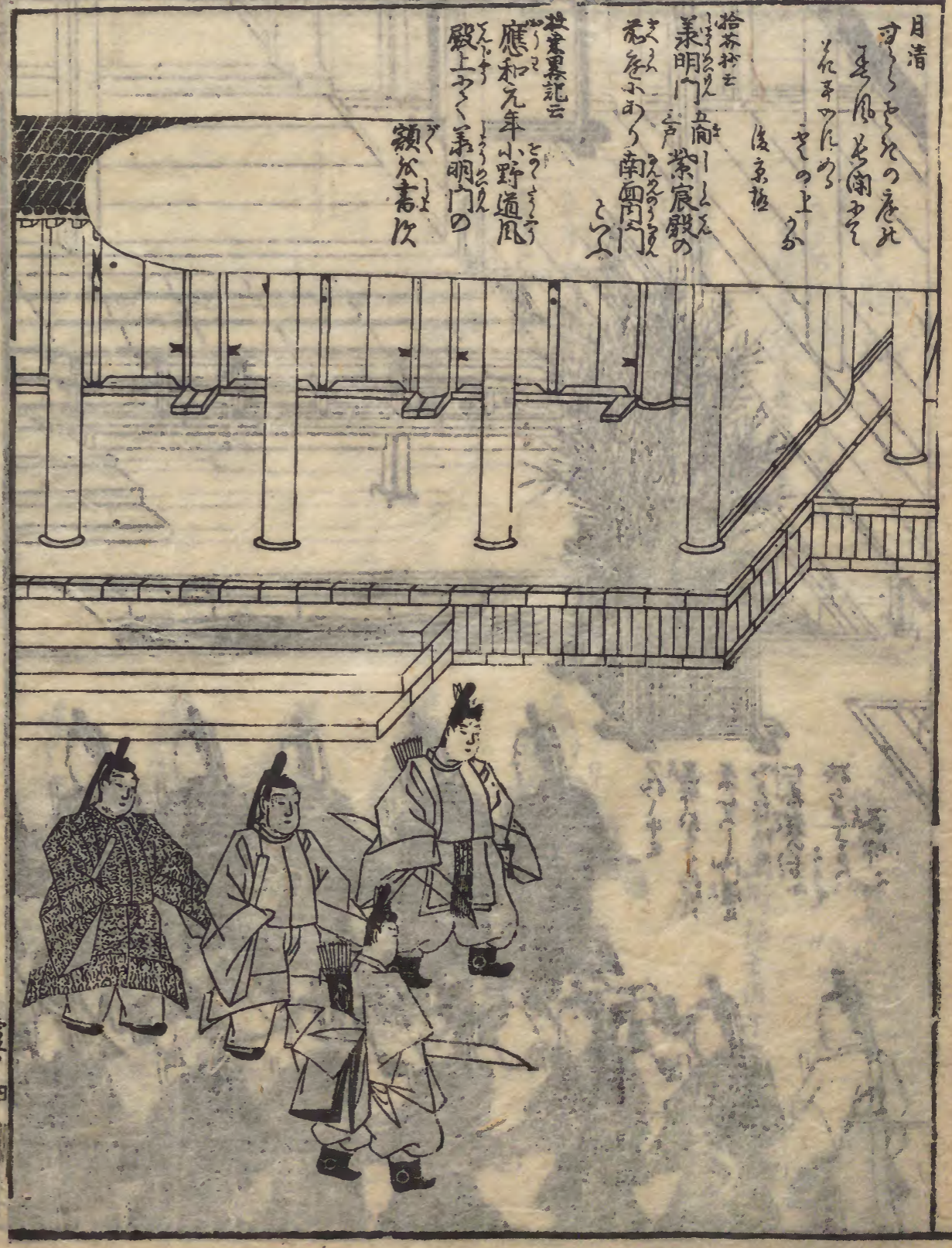
小朝祥
 殿の
 ちんちん
 茶を
 呉

画所預士佐幸先貞





ヒダリ



月清
 河上公の巻
 五ノ巻
 後末極
 拾芥抄云
 兼明門
 紫宸殿の
 北をふり南西門
 社業記云
 應和元年小野通風
 殿上より兼明門の
 額が書次

壹ノ四

草薙御劔と申奉り初の御名は大叢雲劔と申す 倭姫世記曰八坂瓊曲王

八咫鏡草薙劔之三種神寶は之を皇孫小授給ひ永々傳へし 日本書紀曰

素盞盞鳥尊出雲國鞆川上小大降す 倭姫世記曰 倭の時啼哭聲聞ゆ

あはれと為り老るま婦の者あり其中小ま人の少女を娶て極く悲しむ

素盞盞鳥尊向きて六汝達に誰又ゆふ斯く怒るま婦を娶て我等ハハ

所の國神之名脚摩乳妻は子摩乳と稱す女は吾見りしと名を

奇稲田姫と稱す此山中八岐大蛇あり往小吾見と多く吾を今又ま

殘りし少女を娶て吾を今又ま吾を今又ま吾を今又ま吾を今又ま

素盞盞鳥も便小歎たすいかに大蛇と戮を極く是は少女を娶て得せんや

老人大不喜ひ初小隨ひせん昂素盞盞鳥尊稲田姫の湯はの爪櫛はせり

御髪不拂ゆま婦ハの槽小酒を盛て待てる早具期小至る山に震初一人蛇

現れ出り首尾八岐あり眼に酸醬の如く背に柏生茂り八丘八谷の向小勇

延く頭と上ハ槽の酒を飲下酌酌して眠る其時素盞盞鳥所帯中人十握

劔を抜く大蛇とす小斬ゆ尾小至る劔の刃がく鉄より剛其尾は裂く視

るハハの劔あり大地の所居る上小常小村を覆るる大叢雲劔と稱給ふ

其より此寶劔人代小傳す 神代卷 神日本磐余彦天皇 神代卷 神代之跡と繼日向國

宮崎小都に居り此時天下草昧りて封域いまだ定らず故小寶劔と稱す

四海を治り初る帝素盞盞鳥尊國樞原宮小遷幸す 倭姫世記曰 倭後十二代 大足彦

忍代別天皇 景行 二十八年春二月朔日皇子日本武尊筑紫の板賦熊襲ハ

一舉小滅 其國 其國は神代國に於て是九州既小治る百姓を柔く撫へ同帝紀四十年

夏六月東夷叛逆のりて大奏次昂 天皇芥鉞と持て日本武尊小授け東國

安藝と云を詔めりて曰朕聞東夷ハ識性暴強りて凌犯瓜宗と次ハ

邪神あり邪小女鬼あり邪小街衢小遮りて人と弊し其賊徒の中小蝦夷

を強し男女交りて父子の別なく冬穴小宿る夏標小棲毛瓜夜り血瓜飲て

昆弟相疑ひ山小登半飛會の如く邪と行る半走獸の如く擊ハ草小墜追

ふ小く人民と略む古より已来いまだ王化小深げ今朕汝が為人と云ふ小身體

長たし、容姿端正、力、純、器、と、柱、極、た、半、雷、の、ゆ、向、所、故、か、く、攻、所、
必、勝、と、い、ふ、事、か、則、知、之、體、吾、子、の、實、神、人、を、定、ん、天、腹、を、不、殺
と、怒、國、の、不、平、を、諱、天、業、を、經、綸、宗、廟、を、不、易、あ、り、の、命、を、人
是、天、下、則、汝、を、天、下、之、腹、位、則、汝、位、之、願、謀、深、く、遠、慮、暴、賊
其、鬼、を、攘、退、と、詔、あ、り、日、本、を、尊、斧、劍、を、授、再、拜、と、奏、し、曰
嘗、て、西、戎、を、征、と、る、年、天、威、を、施、泰、然、獲、と、戮、を、具、後、決、辰、を、經、
東、夷、暴、逆、速、小、天、神、地、祇、を、祀、天皇、の、聖、恩、を、世、に、傳、ふ、其、境、不、除、德
教、を、示、し、猶、服、せ、る、と、の、あ、り、を、忽、兵、を、發、し、と、し、誅、討、四、海、を、諱、
叔、を、慰、を、ん、天皇、亦、吉、備、武、彦、大、伴、日、連、を、日、本、を、尊、小、從、
七、掬、脛、を、膳、ま、と、と、冬、十、月、朔、日、威、風、凜、々、と、出、陣、し、半、ま、り、
枉、道、て、伊、勢、皇、太、神、宮、を、再、拜、し、倭、姫、命、を、拜、し、と、曰、今、詔、を、被、て、東、征、
反、賊、を、誅、ん、欲、次、於、是、倭、姫、命、寶、劍、を、授、慎、を、怠、る、半、か、り、是、と
今、ト、日、本、を、尊、亦、立、く、駿、河、國、小、至、其、地、の、姦、賊、陽、從、い、尊、と、欺、て、曰

け、郊、小、麋、鹿、の、氣、を、霧、の、ゆ、足、後、林、の、ゆ、あ、小、陰、を、將、と、奏、次
尊、其、言、を、信、し、曠、野、小、入、く、悠、々、然、と、て、覓、獸、の、人、女、姦、賊、思、し、圖、小、將、
相、圖、の、狼、煙、を、上、が、れ、を、伏、勢、一、夜、小、起、其、聲、を、放、た、大、兵、を、塵、を、せん、尊
驚、破、謀、を、知、り、く、佩、を、落、し、蓑、雲、の、寶、劍、を、と、り、と、ぬ、單、を、揮、ひ、ひ、た
と、ひ、く、風、忽、然、と、く、霧、賊、軍、を、吹、靡、た、猛、火、熾、ふ、あ、り、賊、兵、途、次
喪、ひ、烟、小、噎、で、倒、れ、外、を、風、威、い、よ、く、強、く、炎、四、方、小、滿、々、た、れ、逆、賊、殘、り、
討、と、ふ、く、於、是、草、薙、神、劍、を、改、め、其、聲、を、燒、け、と、い、尊、直、小、進、ん、
相、模、圖、を、弒、上、総、小、至、く、賊、を、海、上、を、渡、ら、せ、り、暴、風、忽、起、て、王、船、を、覆、さ、ん、
尊、の、從、り、愛、妻、橘、媛、宣、ん、今、風、つ、と、と、清、必、歸、舟、を、沉、ん、海、神、乃
折、爲、之、願、を、妾、尊、小、贖、く、海、小、入、尊、の、所、身、を、慄、か、く、せん、言、訖、て、團、の、夜、を、入
り、暴、風、忽、止、ん、王、船、を、着、岸、し、故、時、の、人、其、海、を、馳、水、と、い、尊、を、上、総
より、陸、奥、小、入、く、暇、美、の、子、修、を、悉、平、げ、り、凱、陣、の、所、時、確、日、嶺、小、至、く、東、方、を、臨、み
之、歎、く、吾、婦、者、く、と、宣、ん、於、是、團、の、を、く、吾、婦、と、い、風、俗、を、か、ら、け、縁、



都のあやめ紙圍り
 其のうらたき酒の初花
 喉とゆるたより地金の橋
 雲とくろくちるや
 貴族の娘ひきあふ歌
 踏鞠の音は若狭材乃
 枕瀬子女伶の會下
 糸の生花鏡楊弓の音
 二形茶屋の豆腐切
 若これみか紙圍の神
 ともいひ神楽の
 鈴りあぶ
 糸の水の清とみく
 洗ひみぐた
 英顔と粧ひ
 英振と髪とひ
 月花ふくう
 向も名おの

平山善徳画



一掃あぶ
 水にまぐ
 法衣の清
 雲とくち
 東方先生
 喟然と
 のこまひ
 さひあ
 ありた

一ノ七

夫名劍の徳を釋名曰劍檢あり非常を防檢とする所以管子按之曰
ひう葛天盧の山と發く金は出次虫尤んと得く劍と製次名劍體と
は是劍の姑之周官の枕氏劍と作る厥后楚龍泉あり秦太阿工市あり吳小
干將鑊耶あり越小純鈎涇盧豪曹魚腸巨闕の諸劍あり漢高祖の斬蛇
の二尺と提く天下を取る魏文帝の飛景流彩華鋒の二劍あり古
天下の名器を我朝にも小鳥膝丸髭切殊殊切小狐等あり和漢名劍と賞
トて天下と流る事古今ふゆしと例あるを
古今物名 ころりこけ

桓武天皇平安代と興基ありより結繩の政より天下を化成加之代を
聖主徳を踏仁と詠ト上古の風を同く群生と極育一終ハ四海
みく億兆の歳と彌らんをぞ凡ふる光度御曙の記云延喜の御事瓜を
又た例を申れとせられもよりい句奴族をより一古たふも凡く
より今國のをく戸がうとれく天下卓錐の地ををよりありはと

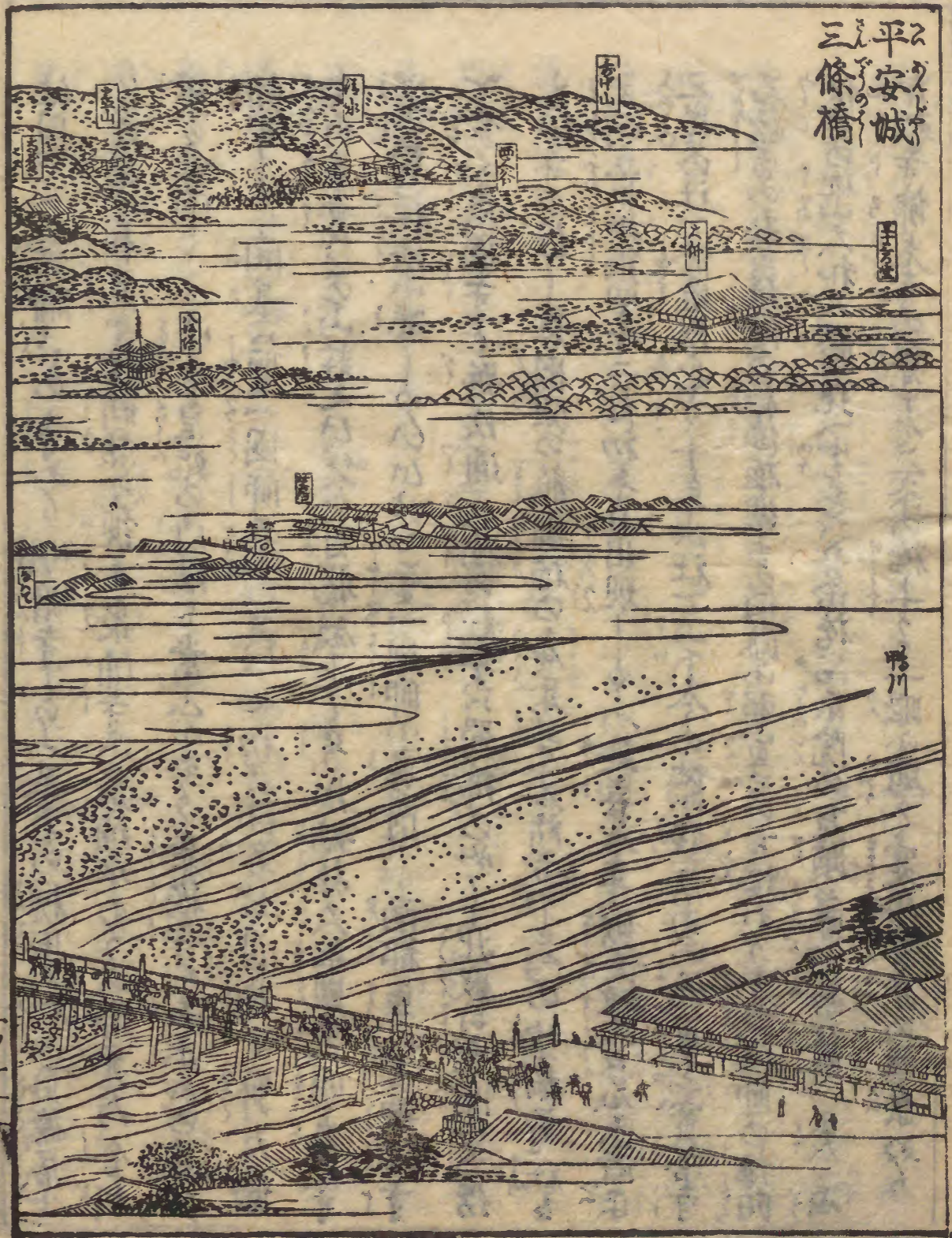
の事なり茶筴獨斷曰京師ハ天子の畿内千里日月と象る日月の躔次千里
あり毛詩曰文王都豐小造者積秦云燕の地方二千里帶甲數十萬をハ天府
國といふ左思が都賦小金城の萬雉と建之條の廣路を披き十二の通門を立てり
抑平安代都て二十有餘歳の都て中其も其例ありハ畿内七道ハ
天武帝の時時勅ふりて定められ其中にも東海道をの冠首より東海道の
煌々として四海の潮ハ東日照され浪の若溢干支の威日々小新より
鳥取く翔らば賞罰嚴ふく虎畏くは江府をの往來貴賤と
かく老かむくむとかく責とかく公卿ハ勅と罷りて其の使藩屏乃
諸侯ハの侍りて秦勅ありありある人の交易斗數の茶門風俗の歌詠詠詠の
ハ御伊勢はの富士嶺を驛路の鈴此絶るもかく馬あり休處あり舟あり
橋あり泊くハ自在あり酒旗所ハハ御籠より周禮曰國野の道十里ハ
一廬あり廬ハ飲食あり二十里ハ宿あり宿ハ驛亭ありと馬ハ鈴とばはる
驛路の鈴といひり毎年貢馬あり運ハ歳をの時ハ公卿國々乃任

めりて守護ふ下りてふしけりて馬に衣も國の戸とゆく通しけふとあり
日本紀孝德帝の神宇大化二年小園宿公定光驛馬傳馬小鈴の契分付る事
あり又續日本紀及び延喜式に家次等令我解等もい祖刃之り
旅人の止宿(ワ)つ夕暮小驛の鈴乃とせひぐくたり
道細と里の駅此鈴赤山よりとくる女より入るる
神もさせりうら雨と志の協此駅の鈴此小衣源と聲
國王七鈴とり川七道つらと官使ふつ賜ふとされと平まむむや(け)く
毎ふらうあうして宿る其所と驛治といふ驛舎(系)師より江戸中を五十二
驛之洛陽教業坊二條橋へ東海道の喉口ありけり程もあれより貞治付け
橋上より洛東の風系(系)入つてせよ本間く神社佛閣烈すくた洛の勝家あふ
やとゆる橋下の流へ水小鴨皇太神宮ゆきふより鴨川といふ名産(石)水
乾ばして墨を不艶あり六月の日は日々小嶽を漢く調貞しなる至て美味之
良み(台)嶺巍然とく王城の鬼門と護る悪魔(系)攘(系)小赤山(系)社

一乘寺の降り松石川(山)の詩仙堂白川の龍如意嶽(系)土寺(系)の(系)文字
月待心の繁多(系)銀閣寺あり神樂園吉田社(系)神祇官(系)齊場ありく
日本の神々(系)鎮(系)多(系)其南(系)小真如堂(系)黒谷(系)西(系)小(系)百(系)遍(系)東(系)小(系)永(系)觀(系)堂(系)あり(系)鹿(系)谷
談合谷(系)松虫(系)鈴虫(系)の古墳(系)光雲寺(系)若王寺(系)五山(系)之上(系)の南(系)禪(系)寺(系)山(系)腹(系)あり
駒(系)の(系)龍(系)山(系)嶺(系)と(系)獨(系)秀(系)あり(系)つ(系)二(系)條(系)橋(系)上(系)より(系)南(系)と(系)眺(系)む(系)を(系)每(系)頂(系)山(系)智(系)恩(系)教(系)院
(系)山(系)の(系)山(系)亭(系)あり(系)四(系)時(系)花(系)之(系)に(系)蹴(系)躑(系)の(系)背(系)若(系)系(系)井(系)の(系)宴(系)會(系)は(系)院(系)之(系)に(系)遊
興(系)公(系)促(系)次(系)長(系)樂(系)寺(系)東(系)之(系)谷(系)雙(系)林(系)寺(系)の(系)西(系)り(系)唐(系)大(系)雅(系)が(系)跡(系)祇(系)園(系)女(系)帝(系)の(系)祠(系)蹟
祇園社(系)二(系)好(系)茶(系)を(系)赤(系)菰(系)膝(系)砌(系)と(系)く(系)豆(系)腐(系)切(系)る(系)若(系)丁(系)々(系)より(系)下(系)河(系)原(系)の(系)酣(系)歌
の聲(系)祇(系)園(系)町(系)の(系)待(系)青(系)雲(系)の(系)鬢(系)け(系)る(系)花(系)の(系)顔(系)落(系)お(系)の(系)他(系)り(系)花(系)香(系)茶(系)向(系)く(系)筒(系)井(系)筒
つぐくも共(系)小(系)秋(系)あり(系)ぬ(系)紅(系)葉(系)の(系)色(系)は(系)小(系)町(系)紅(系)法(系)風(系)ま(系)ひ(系)く(系)赤(系)繁(系)庭(系)九(系)ツ(系)十(系)乃
う(系)か(系)わ(系)せ(系)る(系)あ(系)柏(系)子(系)よく(系)と(系)ん(系)く(系)や(系)ん(系)を(系)も(系)鞠(系)奇(系)ま(系)い(系)曙(系)友(系)は(系)む(系)四(系)条(系)河(系)系(系)の
夕涼(系)蟬(系)の(系)羽(系)著(系)る(系)深(系)帷(系)子(系)若(系)の(系)肌(系)と(系)れ(系)や(系)一(系)力(系)見(系)の(系)足(系)ゆる(系)願(系)履(系)組(系)芝(系)居(系)早(系)雲
花(系)夫(系)倉(系)繩(系)も(系)小(系)雨(系)止(系)地(系)蔵(系)尊(系)建(系)仁(系)寺(系)の(系)陀(系)羅(系)尼(系)の(系)獲(系)六(系)波(系)羅(系)密(系)寺(系)向(系)ひ(系)鐘

六道往化の南無地藏安井の金比羅桂々池爲漢菊水年王祠寺ハ桂乃
一ノ枝七観者ハ伽羅の傍ハ坂の廣申ハ坂の塔高基寺の姥嶽幽艶ハ萩
の花靈山の樓閣より洛陽の萬戸祥之部山西六谷二寧坂經者堂
仲光寺子安の觀者車舎馬止光出れより清水寺小至る地まの極者羽
の傍東の水系流ハ九坂南の方成弁中ハ清閑寺といハ九寺の丹楓要石
豐國山阿弥陀表継信忠信の石塔之傍社東ハ小松谷といハ法然上人
旧蹟の津利あり是より苦集滅道澗谷といハ科之くハ津ハ出る往還之
ハ佛殿ハ大正年中秀吉公の津建立ありしハ盧舎那佛ハ安ハ樓門ハ石
二王の大像内ハ金毛の高繁狗あり古豐國の社ありしハ又南ハ石
塔婆あり世俗秀吉公の古墳と云傳ハ大鐘ハ南方回廊の外ありハ千二箇
堂ハ蓮華王院といハ一千餘の觀者ハ安ハ堂前ハ表ハ池水池の面の燕子花
濃紫の色繁ハハ新の災觀ハ後堂ありハ大夫殿あり諸侯の家ありハ
茶之射術之據ハ東ハ妙法院法親王の御殿あり日吉社智積院善源院

池田町ハ梵論ハの寺あり明暗寺といハ其南の柳園ハ松永貞徳居士
の遺蹟ハ新熊野社新熊野觀者泉涌寺ハ泉涌水あり又佛牙乃舍利
紫名高ハ帝王皇妃の御陵も當ハ小あり東福寺ハ名系氏の菩提
所ありハ同基ハ聖一國師五山の其一ハ初ハ地名ハ月輪ハ野九條
園白兼實ハの山莊といハ月輪殿下ハ号ハ姑蘇ハ相國光明峯寺
道家ハ禅法小師ハハハ地ハ聖一國師ハ寺附ハ南都東大寺興福寺
と云ハ東福寺ハ野ハ通天橋の紅葉ハ蜀錦の如ハ北殿ハ虎關の表傍
ハハ寺小住ハ思園池の龍圓栢の庵ハ等名所多ハハの嶮縮荷社ハ
元明帝和銅四年二月初午日出現ハハ延喜八年勝大政ハ長承時ハ
三峯の社ハ修造ハ永亨十年小社ハ山下今ハ地ハ移ハ南ハ源草ハ寶塔寺
石塔ハの五百羅漢の石像極樂寺の旧跡ハ昭宣ハの古墳あり元政法師の住持
伏見の桃山ハ和ハ路ハ現ハハハハ五条橋ハ系院の古蹟ハ龍ハ寫離ハ表ハ
本願寺佛光寺の覺ハハハハの橋上より一眼ハ遮ハ定平安京の住系あり





東二條の森れ方
 せと川をたぬの別
 おどろくろ音まより
 江戸中より作勢
 まつりの坂道いかに
 日岡路上の茶店ふ
 集ひく酒筵と催
 のらん銭別留別の
 詩弁と送るも
 多かりた
 旅まやうの日の正ふ
 見送るく
 益と
 掛け上
 海老よ

山手
 山手
 山手

洛陽二條橋東海道之首より鴨川とて白川橋あり南の方小青蓮院
沔門跡栗田内殿金藏寺の二樓堂本比藏栗田天皇孫頂山に親習聖人
植髮の像あり押善頂と号する法華經を講義小善頂佛龕とせんたり
中華天台山の最家山時花延次まねる善頂とありこれの謂ゆる
あらん將軍塚の善頂の高嶺あり天下小災害ありん時を啓勅とて
小飯治宗進が水光秀が藤日山神明宮東岩倉大日山はさの土灰製
陶器師ありあね瓜栗田焼と賞次跡上の清水へ牛乳丸吾妻小あり
関原與市と討く勇威と著し日圓峠の本合上人あり小菴とむんを
て平めゆきの人車牛小善啓延次焼く懐千本松松坂とて日長
の阪迄之具をく小沔廟聖あり 天智帝は野小沔將一申河忽然
とて昇天あり沔沔の落止る所小陵とて建たり 沔沔廟道の
人駱系およりひやくお瓜栗田通りたる車馬の多し多しとて上
ふの山小ふの山ありぬあさ瓜 鏡とていふ善小松林の善あり松林抄云
十隣の善一と兼ふ八前石あり天皇の沔沔石上小善多し故小沔沔石とて
或云天智帝の沔沔沔鹿兒沔ありとてあん 秘藏の事あり

明王寺の沔沔村の小あり奉尊十一面觀若く是覺大師の化之境内小鏡の池
あり 天智帝昇天一申河玉體は池水よりとれん沔沔村植木村と
とて沔谷城あり 系所六條橋へ出る下街道とてあり 沔沔大佛兩奉願寺への
と科郷といふ中十六村あり沔谷城とて南小沔沔を東西奉願寺の山科
寺の跡栗田聖の田村將軍蹟大宅村あり三條右大臣善多の塔西山村あり石内藏
良雄聖居の跡山小大石が跡合石花山梅寺河弥陀堂とて善多僧正遍照
の蹟東山寺沔谷小沔寺等あり道 奴茶屋は別道の小側ありはせん祖と
片園世を清とて射術の達人とて今小茶店小茶鉢とて教を飾る吉祥山安祥とて
少の山とて所あり真言宗とて高堂堂とて山科昆沙門堂とて天台宗とて傳教
大師の南基本とて昆沙門大王御寺勢は法親王住職一申右法善宗の檀林
あり護國寺といふ系師妙傳寺小属次在諸洞明神の善あり天兒を根
今法善とて又法諸善とて善次或柳とていふ楊柳と十彈寺八宮村あり
奉尊聖觀若く是德太子の化とていふ 仁明帝實四宮人康親王の棲ゆ
沔沔山階宮と称次 三代實録白山科宮四品彈正尹人康親王貞觀元年五月七日出家入道
沔沔十四年小善とて沔沔三宮殿の風系存勢也倍小見えたり

後小寺... 後陽成院の勅使... 明正院上皇靈... 閣若小經冊... 佛ハ後陽成院の勅使...

少ハ本寺地蔵菩薩... 本幡里... 小園城... 弁寺... 其外...

○系所より退分... 毎業七月廿四日... 毎業七月廿四日... 毎業七月廿四日...

○系所より退分... 毎業七月廿四日... 毎業七月廿四日... 毎業七月廿四日...

退分

村の名... 右の方... 長明方... 山萬福寺... 龍石... 大和街道... 程和... 伏見より...

相坂

名ふ... お坂の松... いたも... お坂の松... 雲のかけ... 湖うみ... 在坂の山...







大津繪の
茶の
うぐ
何師
まふ



大津絵と
ひうあふ
若依とい君
樹とあか
いよりの
小ま
遠りと古雅
あつたあめ
と貴を
あふん

下河造 維惠 寫 羅 島

一ノ十六





蟬丸
 蟬丸曲起蟬風
 散入黃鐘六律通
 莫不謂明今古說
 琴瑟湖上解絃中
 秋雜寫



蟬丸

木庵受



十八

走井

走井のほせをさすをわの坂の園引さゆりゆりかけの駒

走井のかけ樋の水ふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

走井のかけ樋の旁へたふひけとのやふとあるを月の駒

百葉堂 走井のかけ樋の上のふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

遠坂 文徳天皇天安元年初に遠坂園と建つ園守十二人又寺門より又僧

衆二十人兵興嚴重小勝く金剛が士の如く忿怒の眼を張く及び堀内を

新園 八年八月十八日江陽を破れ破れ江西の旗頭

喜相の山乃木葉とたり

遠坂の東海とてせすくかむはくくの園引を育々

在元元方

左系全通雅

相坂の園引をさすをわの坂の園引さゆりゆりかけの駒

走井のかけ樋の水ふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

走井のかけ樋の旁へたふひけとのやふとあるを月の駒

百葉堂 走井のかけ樋の上のふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

遠坂 文徳天皇天安元年初に遠坂園と建つ園守十二人又寺門より又僧

衆二十人兵興嚴重小勝く金剛が士の如く忿怒の眼を張く及び堀内を

新園 八年八月十八日江陽を破れ破れ江西の旗頭

喜相の山乃木葉とたり

遠坂の東海とてせすくかむはくくの園引を育々

在元元方

左系全通雅

相坂の園引をさすをわの坂の園引さゆりゆりかけの駒

走井のかけ樋の水ふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

走井のかけ樋の旁へたふひけとのやふとあるを月の駒

百葉堂 走井のかけ樋の上のふかゆりる喜相の山乃木葉とたり

遠坂 文徳天皇天安元年初に遠坂園と建つ園守十二人又寺門より又僧

衆二十人兵興嚴重小勝く金剛が士の如く忿怒の眼を張く及び堀内を

新園 八年八月十八日江陽を破れ破れ江西の旗頭

喜相の山乃木葉とたり

と流く次まふとちれゆはふ果まむまふとささる人間のありま
あれぬく初るぬ

清輔袋草紙云 小野小町之事見王造云文書生涯井裏其姓王造
氏也小野若住所之名歟或人云件井裏記者弘法大師所
作云小町者貞觀之人也
彼王造壯襄記者他人歟

業平朝臣松尾をよむとよむの山ありてゆかりみあふふとて

なごまきとてふと登りたる夜野の中小舟の上はるを流る聲あり
その洞あはく 秋風のふくすはるをもあはく

こひあやしくおぼくをささるひはたれとていふふ人あはく。そ死人
のゆらひらめくあはくふらなれとていふふ人あはく。あはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

山神森

園清水

山神森 在坂の山腹阿弥陀堂の法あり
園清水 在坂の峠弘法大師火除名跡石の傍あり又園の井ゆ流所あり法世唯一
是の代ふ坂ふの若清水ありてとありを伝ふ 忠孝

在坂の園の清水不教みく今や引らんを月乃駒 貴之
あはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはくあはく

とく。かみひんやんやの事や七。おもひげふらひひこ。しんくしんを侍是

それ程九の姓氏詳ふとことと式部卿敦實親王 宣安帝の親也小管弦

と常小嗜琵琶と善し自流泉啄木の曲と愛しく敢てこれ人小傳次

世公道と會坂の園小菴と結んぐと居る平生小弄琵琶と無名と傳次

孫九頭小奉子のゆく體小加う時の人道士と又伝も博雅之位

の流泉啄木の秘曲とつるんそくは唐小通小車之案小違るあつ時風雨頻あ

叔其あ流のゆめん感しく秘曲と疎ら伝傳し事あ江談小見入る

孫九の諸曲小延喜帝の皇子と又盲人と他は事具證詳多し程九も

異ある道士みりく世の塵埃小縁るに無心の境界をれを盲人に他は事

いれたるたみりく世の塵埃小縁るに無心の境界をれを盲人に他は事

おひりたるさり世も博雅の二位とヤミヤ

園小川 相坂のの道漢より後進歩小川之天津まき 音妻川といふ

新千載 五更くあ瓜お坂のいはり園乃小川はたのちとあき 家茂

金葉 喜那小あ系ちとく 會坂の園は小川に錦とりかく 後頼

日向山 お坂の園の神の後にとくといふ 後頼

紅糸を瓜園と神小日向とくお坂の瓜の事未明し 惟徳寺

香居小川あ瓜のこひひりる日向の神に我かき先と 仲正

安喜寺 小坂所た小あり寺に長吏小属次 園基智禮之師

本尊之園観者 長そ大守智禮之師の他ひり 孫九を瓜の事小強曲と案中人瓜夜々

蓮如上人名跡石 石面小無礙光如未と傳を初に墨者之後地剋に寛正六年のまひ

閑清水明神祠 清水町小あり園の神 孫九の傳次

世喜寺 街のたのふ小あり拾茶抄云園寺本も孫勒志寛郡にありいみい加藍

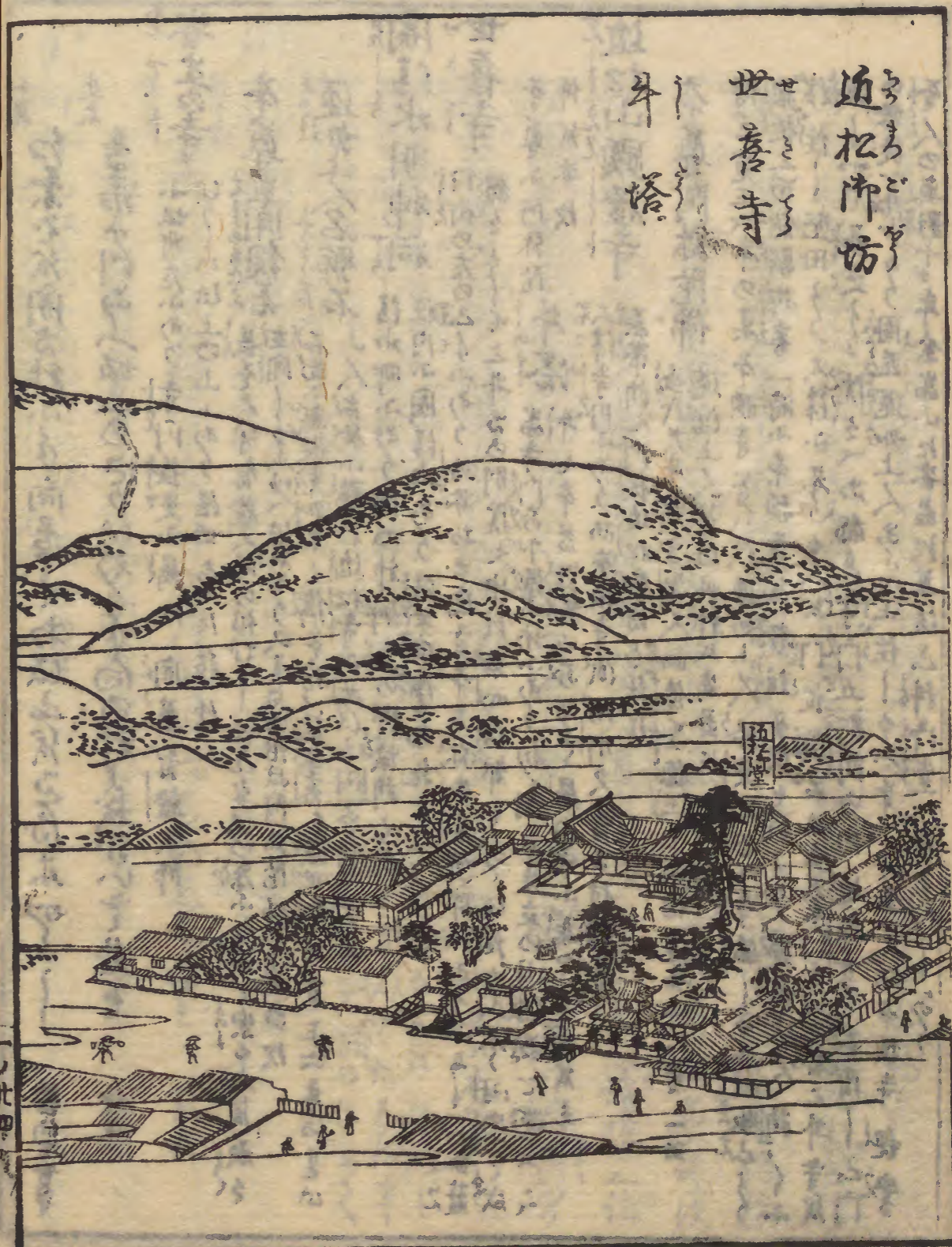
本尊阿弥陀佛 長代大牛親雲對人画係至徳王七高信蓮如上人貴二世

傳云寛正六年のま本願寺貴八代蓮如上人洛東大谷小寺藏し今時藏しより

衆徒三百餘騎押家一時小本願寺に燃射す次それより蓮如上人神く小

日悪徒と流さくう園益蓮如上人あく小止任し中入事三ヶ年人西本願寺親敷

對人の真影十ヶ年余富山に安喜は其後小科作堂へ移されしあり

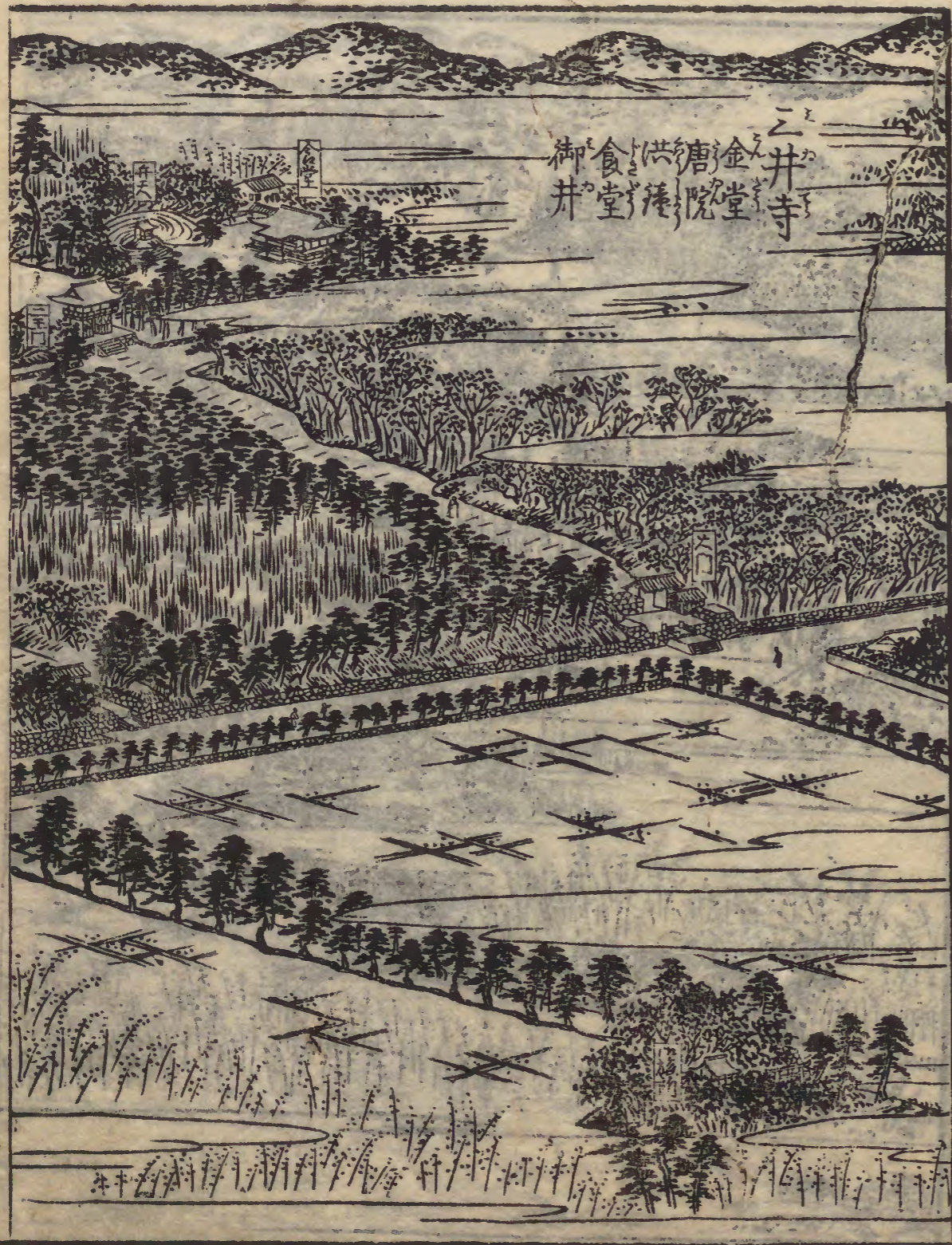




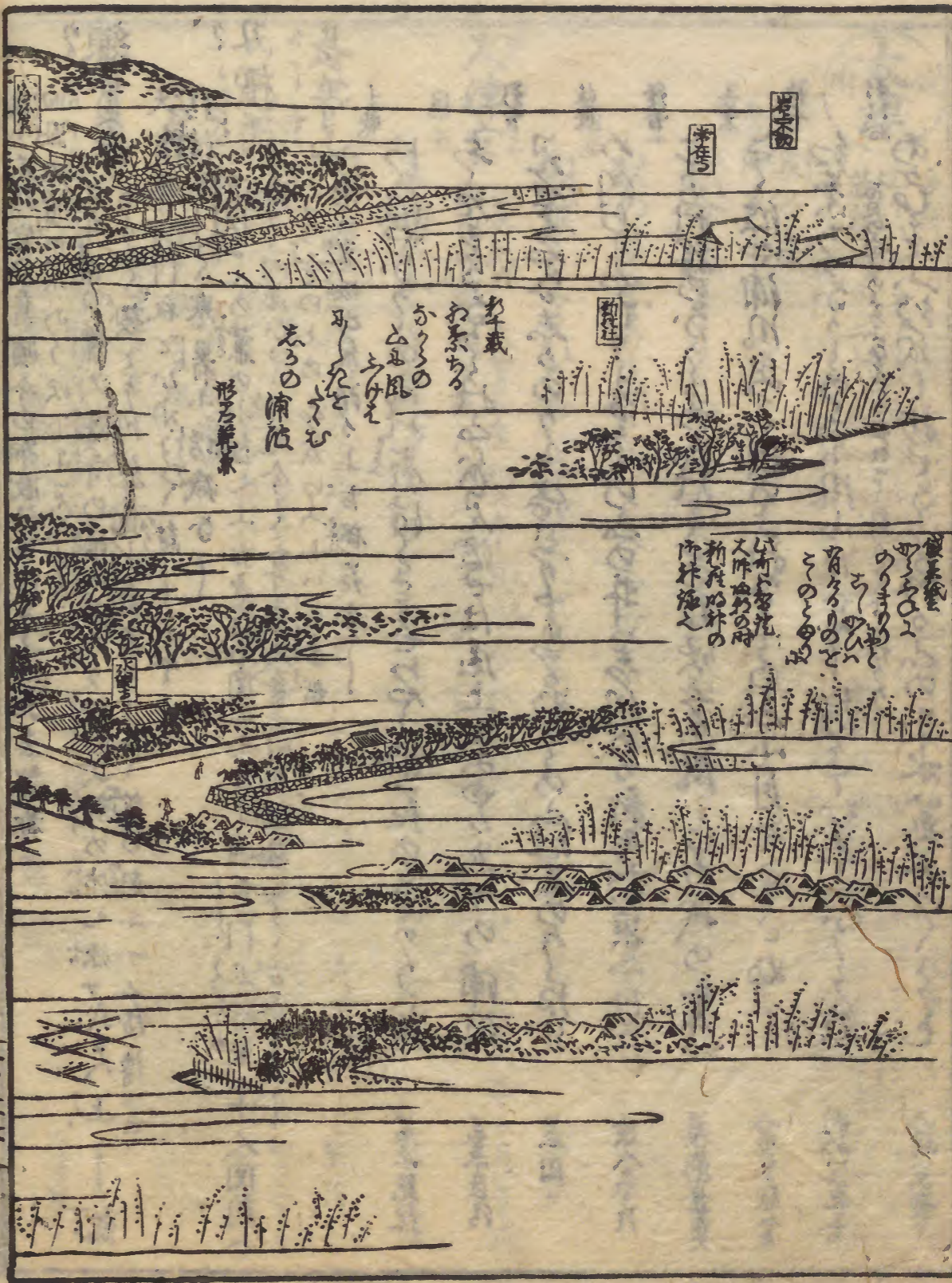
大津築屋所の花は
 五月の青の
 裾の海一羽の
 水門くさくさの
 の花のつらつら
 上志賀都大津
 の遺跡とてまゝ
 なる

春泉齋

ノ九五

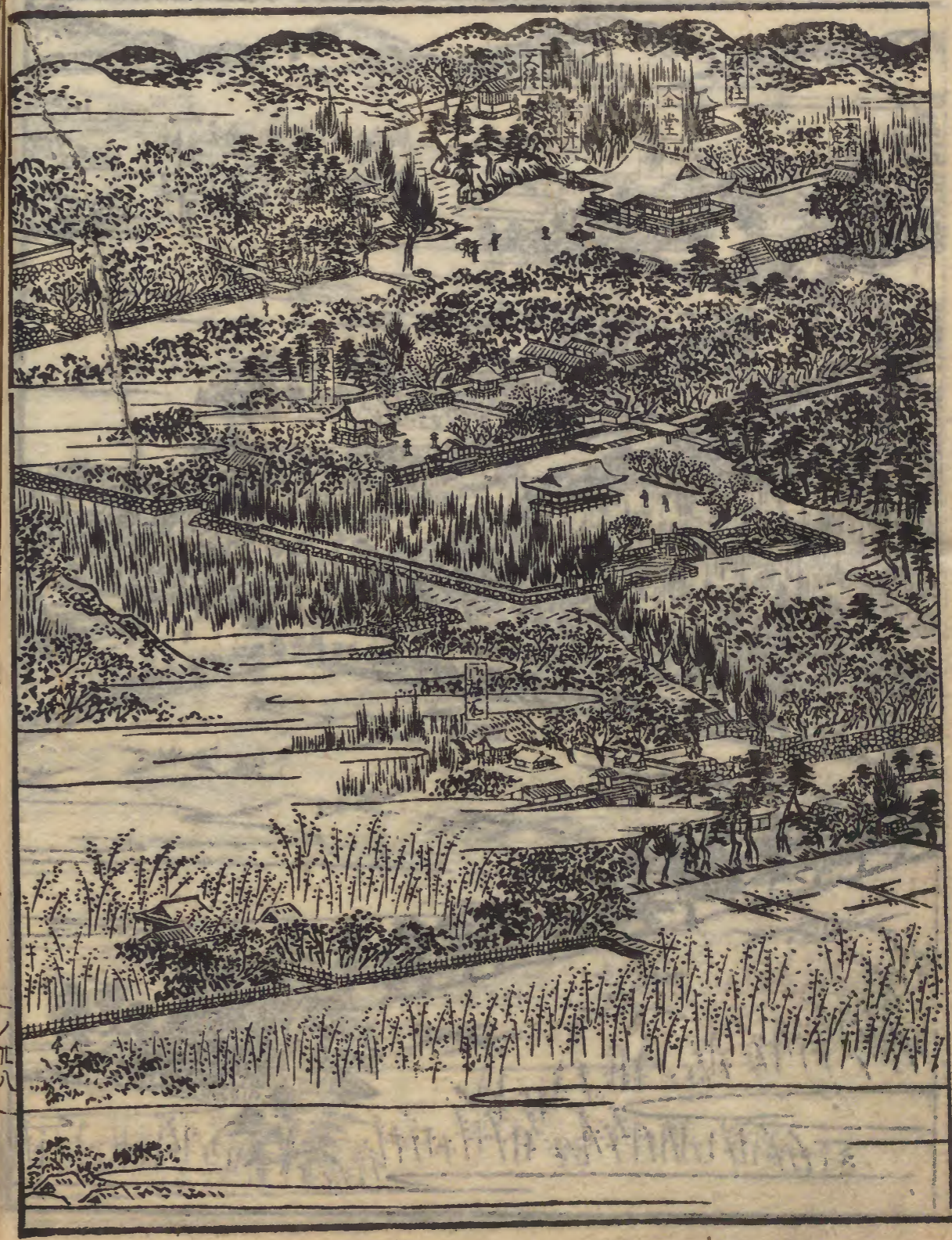


御食ごく 供く 唐たう 金きん 井い 寺じ
 井い 堂だう 院いん 堂だう



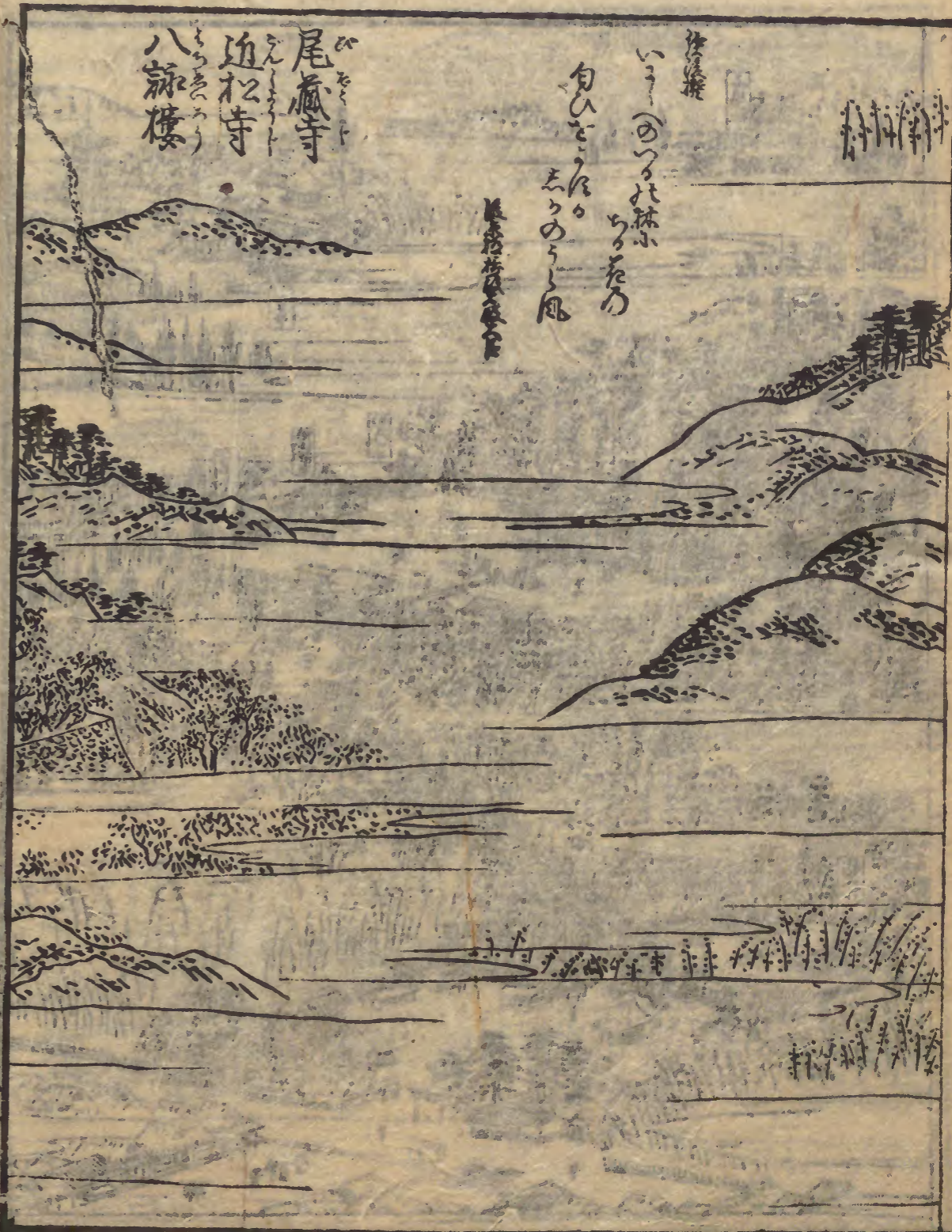
形かたち 龍りゆう 泉せん
 志し の 浦うら 波なみ
 志し の 浦うら 波なみ
 志し の 浦うら 波なみ

御ご 食く 供く 唐たう 金きん 井い 寺じ
 井い 堂だう 院いん 堂だう





淡海八景
 三井晚鐘
 湖面朦朧畫
 不成昏黛高
 關出園城霞
 間好是容瓶
 月十倍楓橋
 半夜色
 相國寺林長老
 ちんちんの霞
 夕のくさき
 入のの屋
 近訪園白時無公



尾藏寺
 近松寺
 八詠樓
 白ひさの
 ちんちんの
 尾藏寺林長老

長等山園城寺

志賀郡小町 長等山園城寺又寺門と林次
志賀郡小町 長等山園城寺又寺門と林次

さくかみや二井の古寺のいふれとむくふの尊はつ一尺

かみむさぶく河のそふとみほる二井の清水ふる月夜

治ふたぐく種のもくを夜ふれゆいふと志うけ山寺

大智帝の皇子大友の殿舎あり莊園城邑の地ある

園城寺と號し又祇園稻舍紺園化城と比ぶるゆいんを初同帝六年

大和國飛鳥宮より樂々彼大津宮へ遷都ゆりて日七年 天皇

後感てく崇福寺を建立し金起上六の弥勒佛と安し其翌年又

園城寺を築く

一年故前 厥后大友與多磨 大智帝皇子也 其男都堵磨と相議し

大智帝の遺勅と蒙り大友皇子の追福のため崇福寺を地へ後し

園城寺を再營し彩ひあはれより殿堂巍々壯嚴玲瓏とて給孤乃

布軍とある其頃教待仙僧あはれ練りし貞觀元年の皇智證大師

ふ見く傳法を授與し東北の石窟へ入定を具より大師入唐して大台山へ

登り清涼山の隱居を殊の遺跡とあり同寺を龍王小塔と石象石塔を

巡り顯密二教と究然在唐六年ありて帰朝し 法和光孝陽成二帝

の戒師と成實祚延長と初り國師泰平と稱する於茲之會は曉か期し

寺門の繁榮益熾之長等の山橋へ入相の種小塔は丹楨と秋乃月と

佐々波小法（星宿果仁）を騷擾の愁をためしむるは治承九年源三位

頼政の爲擔し平家の暴逆に伽藍を弊せしれ行尊いあさる原に歸唱

らんと述懐を詠し天地光く山河更に龍虎争ふと茶本腥し衛

右大將頼朝卿ふ當ふより勝狀と擗し平家没官の地と着除し

中へ東鑑ふたよりあり平家お倍大平記ふも功をふる人く世の

人小贈火はけ寺の高僧記より延暦寺より一白餘年魁しと奥基

ありし定て若れ三年の古寺と修せしと宜あらん泉寂初 大智帝

逆召入鹿を戮し其罪障を悔めしと建營ありし一平道山崎基

建武の... 寺室... 山... 實... の中...

○食堂 金堂の東... 赤... 天の...

○唐院 金堂の南... 唐院と号... 傳法...

○護摩堂 唐院の... 護摩堂... 傳法...

○三層塔 唐院の... 御當家... 乃ん...

○新山王神祠 唐院の... 貞觀二年... のま...

○寶藏 唐院の... 寶藏... 傳法...

○大日覺王寶冠 一頂... 釋迦...

○何難尊者草鞋 一足... 傳法...

○尊星王菩薩像 一軀... 傳法...

○權頂之香耶立鉢鉢 一具... 傳法...

○白色佛舍利 粒々大如指... 傳法...

○十八神祠 南院の... 護伽藍神... 貞觀十七年...

○辨財天祠 金堂の... 辨財天... 傳法...

○住吉祠 金堂の... 住吉祠... 傳法...

○燈幢石櫃 金堂の... 燈幢石櫃... 傳法...

○經藏 金堂の... 經藏... 傳法...

○教待仙人入定窟 金堂の... 教待仙人... 傳法...

○... 傳法... 傳法...

○... 傳法... 傳法...

○... 傳法... 傳法...

○... 傳法... 傳法...

○圓滿院御殿 寺門境内あり 聖護院宮 圓滿院宮 實相院宮

○安樂行堂 山院蓮華谷あり 地藏 弥勒 釋迦 三尊安置

○正法寺 南院あり 初ノ聖願寺と稱し 世俗巡禮 觀者或ハ

奉尊如意 脇觀者脇士 右邊 寺門傳記云 後三條院 所願寺あり 延久

二年の末 後三條帝所不豫 月と累の平念 日 時 大僧都

徳範 福乃奉く一寺と建之 金念等 躬 如意 脇觀者 係 安置

或云正法寺ハ初ノ南院山上あり 文明九年三月朔日 大衆乃 瑞雲

福神石 正法寺奥院あり 石塔 婆角石 儀石の

大悲閣 正法寺本堂 長の方あり 方ニ向半 慶長十年 あり 延建

何來 天地 動 玄 陰 落日 樓 臺 試 一 瞻

秋入 九 江 波 蕩 漾 雲 連 三 越 氣 蕭 森

湘靈 鼓 瑟 思 無 盡 楚 客 行 吟 恨 竟 深

不識 關 門 風 兩 夜 幾 人 操 曲 遇 知 音

○近松寺 正法寺の西の方ハ殿あり 古ハ近松谷ハ百二十六房あり

奉尊千の親者金長を尺二寸 智徳大師の他 観高 観若 堂あり

世人正法寺と巡礼 觀者あり 高観若とて 坂路とて 堂あり

金地 存 八 詠 樓 觀者堂ハ階ハ高樓とて 近江の八幡 悉く 了り

安然和尚石浮圖 南方山上あり 七層石塔 婆角 あり 五丈院 徳 安然

尾藏寺 近松寺の山あり 三井五別所の其一ノ向基 智徳大師中興

三藏 觀者 三 林 又 三 殿 觀者 三 門 足 大 黒 天 あり 故 千

地あり 傳云 寛仁三年十二月廿二日 入定 年六十五 寺門 權 徳 あり 殆 祖 之

○尾藏寺 尾藏寺の鎮守ハ唐平六年 伊 徳 源 賴 義 あり 勸 傳 又

○微妙寺 阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

阿闍梨あり 九十六房あり 今 終 五 房 存 在

松 施 乃 幣 帛 乃 妙 乃 色 幾
賊 尚 乃 恩 德 不 限 乃 良
和 山 松 尾 天 明 神 神
西 門 中 心 天 王 明 神
東 門 中 心 天 王 明 神
陽 成 天 子 皇 敬 比 比 天
亭 子 天 子 皇 敬 比 比 天
天 台 弟 五 乃 座 主 登 志
園 城 弟 二 乃 貫 主 仁
一 切 經 論 三 百 簡 遍 天
諸 尊 傳 法 二 百 簡 遍 天
五 百 餘 人 髮 乎 剃 利 人
王 臣 道 俗 歸 敬 志 利 人
千 里 萬 里 歸 敬 志 利 人
門 弟 怪 美 里 波 敬 志 利 人
良 諸 乃 遷 化 乎 遠 久 見 天
元 璋 禪 師 加 志 志 冠 日 見 天
圓 載 入 海 世 志 志 冠 日 見 天
時 仁 此 等 乎 開 志 志 冠 日 見 天
後 乃 日 宗 人 告 志 志 冠 日 見 天
寬 平 三 年 冬 乃 天 曾 人 波 波 天
十 月 二 十 九 日 仁 天 曾 人 波 波 天
其 時 十 九 日 仁 天 曾 人 波 波 天
天 乃 音 方 世 界 仁 天 曾 人 波 波 天
大 師 寂 乃 後 樂 雲 響 二 仁 天 曾 人 波 波 天

神 感 實 仁 甚 志
醍 醐 乃 妙 味 乃 希 乃 色
門 弟 必 妙 味 乃 希 乃 色
詞 勝 講 於 曾 始 免 置
最 眼 和 尚 仁 補 令 叙
法 僧 都 仁 補 令 叙
樞 十 僧 都 仁 補 令 叙
三 十 僧 都 仁 補 令 叙
大 乘 小 乘 密 戒 珠 瑩 懸
三 部 余 人 戒 珠 瑩 懸
德 行 天 下 仁 充 授 氣 久 氣
三 世 十 方 胸 仁 充 授 氣 久 氣
金 剛 薩 埵 乃 告 登 演 在 里 利 氣 久 氣
鐘 乎 舉 天 曾 悲 泣 須 志 演 在 里 利 氣 久 氣
聲 乎 舉 天 曾 悲 泣 須 志 演 在 里 利 氣 久 氣
淚 乎 舉 天 曾 悲 泣 須 志 演 在 里 利 氣 久 氣
驚 怪 不 違 信 乎 取 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
一 事 毛 不 違 信 乎 取 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
生 年 七 十 八 仁 志 取 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
大 涅 槃 在 波 八 仁 志 取 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
菩 薩 聖 衆 室 仁 入 滿 給 不 天 留 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
定 印 結 天 波 仁 入 滿 給 不 天 留 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
三 夜 乃 枕 乎 替 志 加 入 滿 給 不 天 留 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣
門 弟 淚 乎 流 氣 利 波 留 千 不 天 留 幾 幾 留 氣 不 里 利 氣 久 氣

承 和 三 年 冬 乃 月
嘉 祥 三 年 春 乃 月
文 德 皇 宣 下 志 乃 月
唐 乃 大 皇 宣 下 志 乃 月
天 台 山 仁 仁 登 七 年 志 乃 月
清 涼 山 仁 仁 登 七 年 志 乃 月
長 安 洛 陽 迴 望 天 天 波 波 天
西 天 唐 土 乃 師 在 遇 天 天 波 波 天
法 全 關 尚 乃 開 元 寺 寺 天 天 波 波 天
南 嶽 天 台 遺 身 龍 塔 寺 寺 天 天 波 波 天
石 象 石 橋 見 渡 身 塔 寺 寺 天 天 波 波 天
自 宗 密 教 橋 見 渡 身 塔 寺 寺 天 天 波 波 天
歸 朝 乃 他 宗 教 橋 見 渡 身 塔 寺 寺 天 天 波 波 天
清 和 天 波 仁 波 昔 無 東 天 天 波 波 天
新 渡 乃 法 皇 元 新 羅 仁 國 幾 天 天 波 波 天
爾 時 大 師 門 千 餘 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
百 六 十 年 師 行 邊 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
仁 壽 殿 仁 波 詔 平 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
金 光 明 乃 乃 齋 會 仁 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
清 涼 殿 乃 乃 決 疑 仁 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
熊 野 山 平 乃 決 疑 仁 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
八 尺 乃 飛 攀 志 仁 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天
權 現 三 所 乃 飛 攀 志 仁 兼 氣 里 留 志 軸 仁 國 幾 天 天 波 波 天

大 聖 明 王 感 見 志
入 唐 求 法 許 給 不 志
山 王 道 求 法 許 給 不 志
嶺 南 道 求 法 許 給 不 志
丈 殊 乃 靈 地 乎 巡 禮 志
勝 地 漢 語 乎 窮 多 踏 禮 志
一 梵 文 心 蓮 花 雨 麗 久 氣
五 瓶 智 水 影 像 院 久 氣
無 不 空 影 像 院 久 氣
銀 地 金 地 七 修 行 志
經 論 章 疏 千 餘 筒 志
大 師 乃 善 神 影 嚮 須 軸 年 幾 院 久 氣
勅 宣 下 利 天 弘 未 利 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
三 身 仁 勒 乃 附 屬 得 給 不 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
宗 師 入 壇 正 灌 頂 志 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
王 臣 入 壇 正 灌 頂 志 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
護 法 清 辨 物 登 須 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
道 乎 迷 天 辨 物 登 須 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣
一 道 乎 迷 天 辨 物 登 須 幾 天 須 軸 年 幾 院 久 氣

延長五年冬乃季
天皇勅宣志給天
静觀僧正奏聞
氣志

智證大師御影銘

廟塔在四明嶽東

雙瞳遠瞻 奇骨欽峯 覺月現相 夢日繫陰
花頂步石 英聲振金 識良諧波 山瀛阻深

大友皇子傳

隈風藻出此書天平勝寶三年淡海三船所撰也
三船者大友皇子曾孫葛野王之孫池邊王之子也

皇太子者淡海帝之長子也 魁岸奇偉風範矜
深眼子中精耀顧盼煒燁唐使劉德高見而異曰
此皇中風骨不似世間人實非此國之分掌
夢天中洞啓朱衣老翁捧日而至擊授皇子忽
有內從臣數曰出恐便棄將去覺而驚異具請
原臣平曰豈有如此事乎臣聞天之道無親惟
善是輔願大王勤修德業災異不遂結姻戚以
女願納後庭以克箕帚之妾遂結姻戚以親愛
博學多通有文武材幹始親萬機羣下畏莫不
肅然年二十立為皇太子親廣延學士沙宅紹
明答春初吉太尚許率母木素貴子等以爲
賓客太子天性明悟雅愛博古下筆成章出言
爲論時議者歎其洪學未幾文藻日新會士申
年之亂天命不遂時年二十五藻日新會士申
五言侍宴一絕

皇明光日月帝德載天地三才並泰昌
道德兼天訓鹽梅寄真宰羞無監撫術

安能臨四海 萬國表臣義 懷一絕
又友皇子的詩藻多藏于園城寺皇子的古蹟于今所
日本紀云 初之記ヤとあらん

志賀都

古志賀里西郡村小作所内とら字一々
其地の水は旧都の跡又ハ神社作向古跡ハ考ハ
あハリ云 一教好リ
日本紀云 景行天皇五十八年春二月辛丑朔辛亥辛近

前王廟陵記云大和國山邊郡上總村東陵一箇
所アリ然レハ一決レ難シ
古人和礼有哉樂浪乃故京乎見者悲寸
高辛古人



文鳴
 貞
 筆



志賀里

三升のふら村あり 宗正西郡正真寺

王承

神よいふ神の月に猿孫くくかりひや歩る志うれ古里

宗正真寺

夫止

橘の花やかりの花形らん香しをむくの志うれ古里

光明寺 園白

滋賀花園

志賀里 新立おん

十載

さくばや志うれ花園をまた昔れ人乃を瓜そく一か

祝部成伸

新古

あまうらん志賀の花園柿小たけうの関ん志乃とるさと

後花園

新古

え本守あれたこのあふひとて着もをく志うれ花園

定家

志賀山城

滋賀里 赤坂より 登り 山 中里 白川村

吉承

ふらう風けりをうる志うれみい流もあぬ紅葉くもり

春道河村

口

白岩の節もつらうる志けり岩けりも嘆花とあそびん

紀秋孝

後拾

橘花乃みえぬまを散ふかりいづこも志うれ乃ふま

橘成之

新古

白ひまの風の夜を枝折り花す城り志うれ山みち

法定

滋賀浦

比叡の浦より 幸崎及び下坂

拾遺

さくばや志うれ浦風いづこも志うれ浦のうらみ

有徳公住

後拾

みづりそあまの海へうらみ吹きたり人志うれうら風

伊勢斎藤

新古

志うれの浦やまきうらみはまきうらみ氷て出る宵明志目

宗隆

新古

志賀の浦に松吹風のさしき夕波ちとるまお啼也

権中絶唐實

王承

志うれ浦や対面て渡さうさまに之上の山を半く移

漢人志賀

後拾

あまの浦の山城をそくかむはとあふけく志うれ浦

法定

新古

昔あつ沖の小橋に旅路ももむらうけ志ののうら

法下定

新古

志賀の海乃白ゆり花の波に上ふ度とてうら風吹

宗隆

新古

志うれ浦や湖てうらみの岸も秋もあつる宵明乃月

法定

滋賀大膳田

今まのあつ

後拾

あつ人の汀に氷をまき渡さうらまの志乃大膳田

法定

志賀津

今まのあつ

後拾

あつあつ志の津のあつらうらまの志乃大膳田

法定



志賀の杖ハ
 八尋の杖ト
 携へ肩ハハ
 崩れし湖水
 の依り想規
 成りし系後
 の津島志賀
 けた田の想
 と上人ちと
 足とち想
 想りて多年
 のり徳を憂
 中いしハ
 多幸ハ
 せんハ
 兼せぬ未の世
 被戒の出
 ぬ人ハ
 行學
 教の
 傍
 少
 少



下河邊維惠

黒主祠

志賀新編 五部小ありは地を生土神と云

祭神 大伴黒主の霊と云る 古今集六哥仙の昔人あり其序小曰
おほき心のまゆりそのとほりやーいそなたををり侍ふ人乃たれ
かけふやとらるるぞと

志賀のまゆりふ大道より入り入るふ黒ぬりの明神と申す
いふは考されぬやりのふゆめが許ふあるなり

傳云黒主の光孝天皇の時此人ありて大友皇子の苗裔と云後改て大伴の字と
用ゆと云又志賀の莊領が宿小一社あり大伴黒主の志賀郡の地主ありて
大友與多智の孫都督督の字に臨湯頭よりいひて大伴黒主と云

大友與多智の孫都督督の字に臨湯頭よりいひて大伴黒主と云
大友與多智の孫都督督の字に臨湯頭よりいひて大伴黒主と云
大友與多智の孫都督督の字に臨湯頭よりいひて大伴黒主と云
大友與多智の孫都督督の字に臨湯頭よりいひて大伴黒主と云

貫之祠

志賀正興と村あり生土神と云勧誘の鎮坐の由編定あり

福慶寺

志賀里其舊蹟定あり一名志賀寺又名建徳寺

姓氏深小高皇の靈尊の五世大伴日連の孫ありて
大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて
大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて

大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて
大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて
大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて大伴日連の孫ありて

別崇福寺と稱したる所あり後湖城のりぐりか神波と云ふ
ひやくのあふんり
類聚國史曰

天平八年八月乙酉以近江國朝書法一百卷施入崇福寺

弘仁六年正月崇福梵尺二寺禪居之淨域伽藍之勝地也 同書 同年

四月幸近江國滋賀縣寄便過崇福寺大僧都永忠護命法師等率

衆僧奉迎於門外 皇帝降輿升堂禮佛更過梵釋寺傳璽賦詩

群臣奉和久僧都永忠自煎茶奉御施御被即御船泛湖水國司奉

風俗歌舞五位已上竝掾以下賜衣被史生以下郡司已上賜綿有差

延喜式曰 崇福寺傳法會料一萬束修理料五千束

太平記云

むり志賀寺上人より學塾修の聖光かたりたり遠小波之夏の大宅

と少く永く九思の淨刹小生をんとむひい富貴の人となくも夏中の

快樂と多し容色の妙ありふ達ても建ひのおれ着想と憐む雲と隣乃

柴の店をりともく位をふり川より極一庭の松も秋風さく成みたり

ある時上人堂座の中と立出くも小一易の杖とさく眉小八字の霜とさく

湖水波老のうさふ向くお想觀と成くん波と傳とまきま人立ゆひさる

新小系極の淨息所志賀の花園のまじき一葉と淨流とく淨流をわく

たる浄車のわんがあげられふ上人浄目か久をまのせくおやくん

まくたまかろうのさふたり遙か浄車のわんが送つてまいたふおひ

と名を方もかうたれれ柴の店小立席とく本尊小向ひまうたれ觀念の

座の上より妄想の化のま立をひと林名の聲は中よたたりくる大息のま

はうらるねもあかぐさむらりやと著心のまをかむむいともさうたまひ

閑窓の月ふうをゆけ忘るおひおかふり今生の忘念つお難きこと

後生の漆也成ぬかれおおひのぬきたる浄息所小一塔下く心をさく

條後とせむとさひく上人狐裘小鳩の杖とけさかくく末極の淨息所此

浄所へまゝ鞠のつげれおのふ一日一杖を穿つりける銀の人のれいか

修り者まじりたる人ゆうんをわくむらりかうりたる浄息所浄流の

内よりくるふ浄流せれく是れいと高志望の花見のひささ月と

見ゆせうりしむしをみそやかきんらんれゆふはよる後世のほを佳ら
身の上よりぬくさうせむらう病むらうのそれふふさけはひけは
かぐさむんもそのまじとちて上人れいれれまじりかくとちひ
て中門の聖業のふしひまはいて申出さるふまかくはりてそをた
かひたる御息所よりうあふま色のやどをれまも又かそりくも
おぼしめされれい若のそくある御もみ聖業の内よりかきこし
させむしよりみ御もみやうつたふ
初なるそののれうあむりまはにらうたゆくくなあ緒
とよほまされいやうくみかたをらうあにだ

あらくれ玉のうてかたをちとまはれとておゆくためを
中をいれく聖のんぞぞかぐさあひたるやう道心堅固の聖人若修練
りの尊宿ぶふもまげうたの發心修りの道ありたる
今志賀赤坂村小建福寺の同跡とく大通寺とく入浄土宗の寺あり又南坂本ふ
崇福寺の同跡とく盛安寺とく天台宗の寺ありけ寺の編記より瑞應山

梵

崇福寺盛安寺 後朝倉義景の家長松若盛安といふ都天文中再興
ありく盛安寺盛安寺 後朝倉義景の家長松若盛安といふ都天文中再興
ありく盛安寺盛安寺 後朝倉義景の家長松若盛安といふ都天文中再興
ありく盛安寺盛安寺 後朝倉義景の家長松若盛安といふ都天文中再興
ありく盛安寺盛安寺 後朝倉義景の家長松若盛安といふ都天文中再興

釋

釋廢寺 寺門傳記補畧云長等山東の麓其古蹟といふ今詳わらば
始造釋寺云云高僧記云 桓武天皇 延曆五年春正月 修勅於近江國滋賀郡
天皇等身之佛之蹟之初為登極御所也拾遺抄云
十五大寺其一寺云梵釋寺近江國志賀郡 延曆五年正月建立之
同十一年近江國水田町 勅施入

明

智光秀城志賀赤坂村の上方ふの智光秀城 延曆五年正月建立之
唐崎 幸徳又韓寄とて書に
古今物語のうら小武里ふあり

波の花沖うさたてちうさりう水のまよ風や成らん
月かけの消ぬ氷とみかぐさうさ浪よる志ののり奇
樂々波や志の幸勝風候くちのさねふさふ人
あつたの浪は真砂のけふち七巻の余波へさく好ん
うさたやちの沖小雲晴く月の氷に秋風ぞ吹

伊勢
若菜歌家
法隆寺入道
元補
法隆寺抄



松林
 唐崎社
 一ツ松
 志らの漢松
 子日
 子日
 あん
 後成
 松林の
 松林の
 藤みく
 藤みく

明光秀城



唐崎社
 一ツ松
 志らの漢松
 子日
 子日
 あん
 後成

山手林修

八四十三

明智存馬助半後
合資殿て
中城あゆ
大津く
極多布秀政
困れ冷方かく
名もた駿馬
赤たれ湖水
か念と赤とあ
粘り水徳が
主龍の陣に
三つお境
威風凛々
湖上とつり
本崎の松乃
江戸着し
古今の雄將
楚の項王乃
馬江とつり

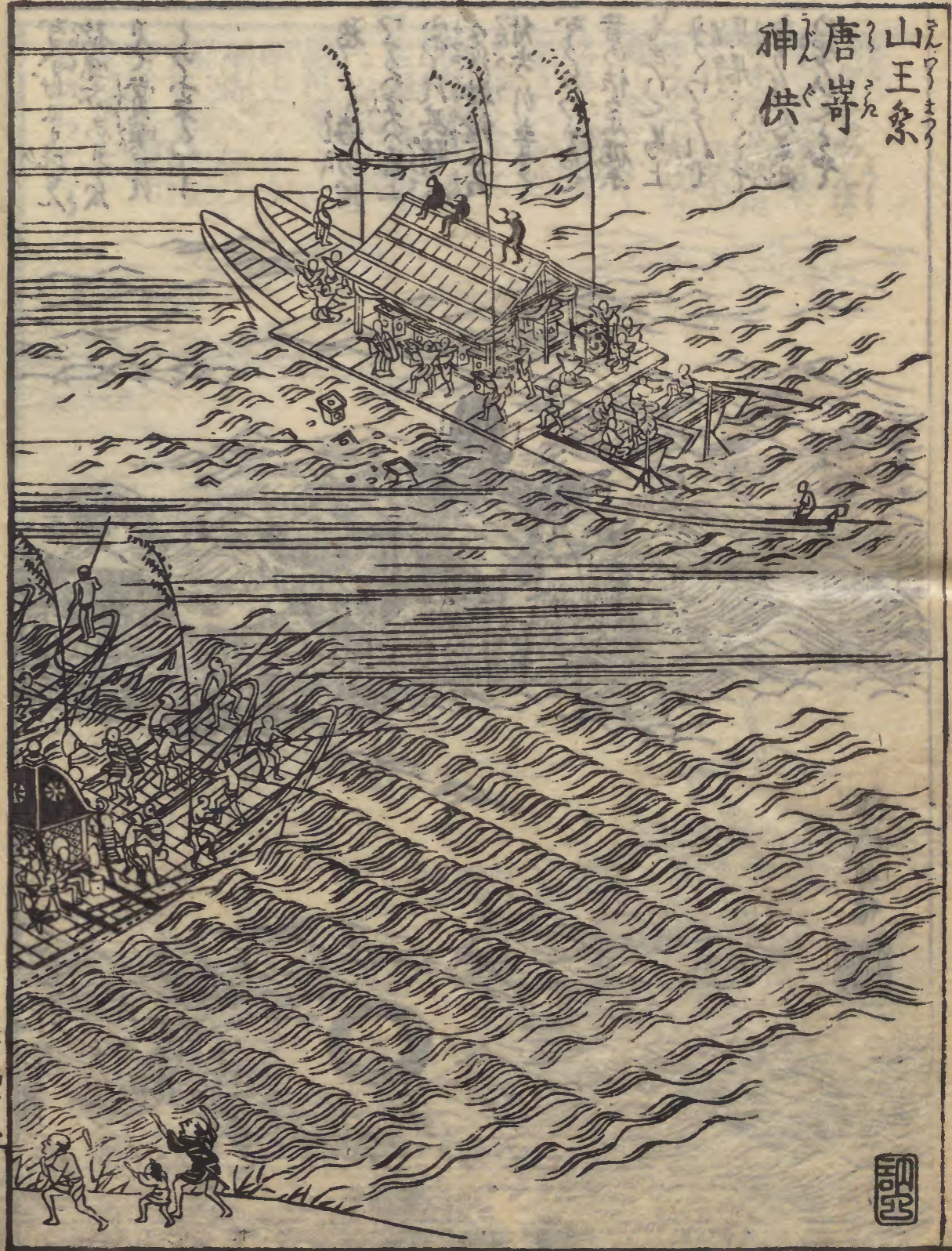
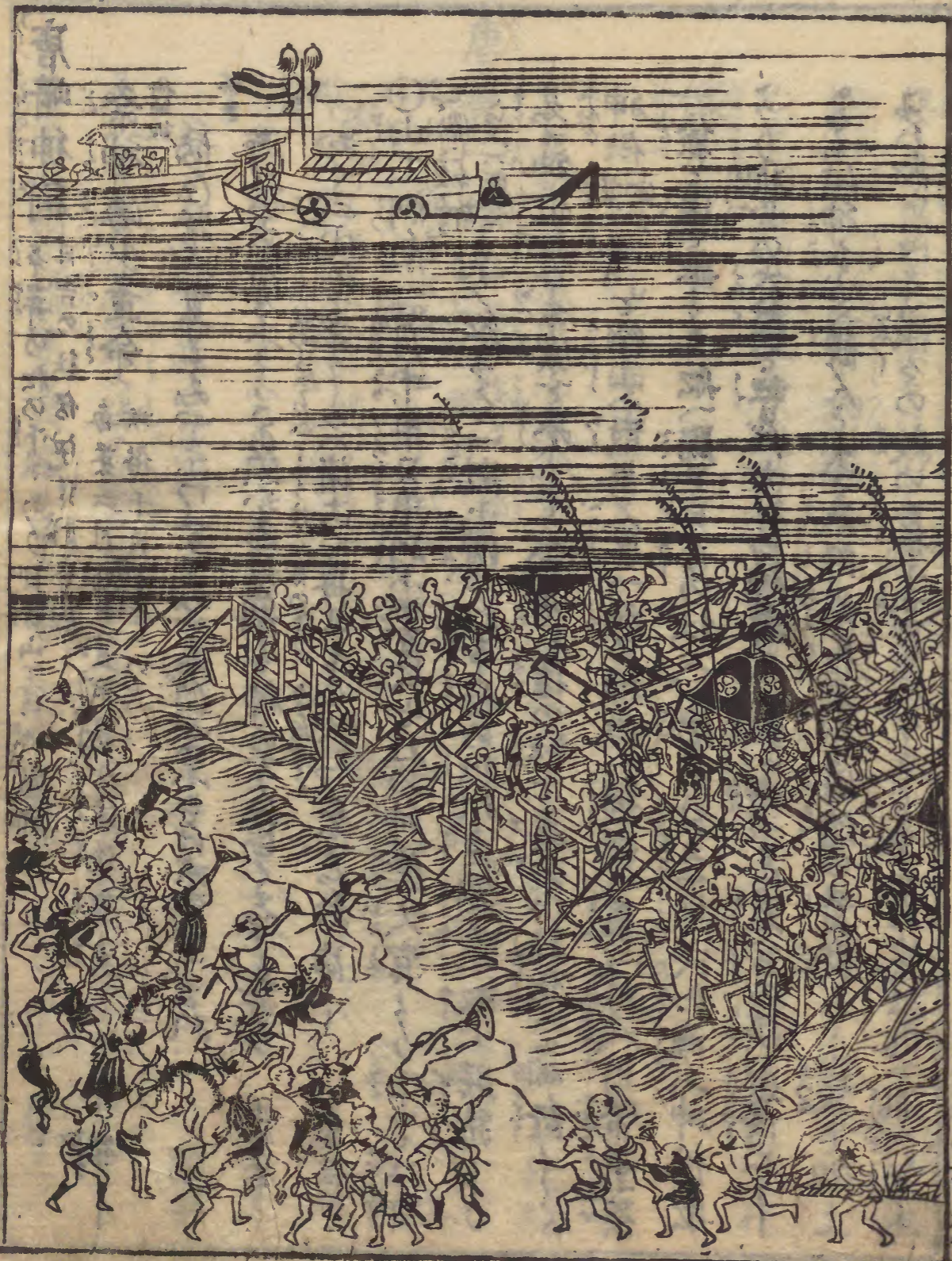


かまげふも此見
秋味方あま
見て賞嘆せ
とつるまわ

君と海は
つるん実の馬上
小のる其騎人
に撥鞍鐘
付歩りま
あうたつ
昔の依之床
もまれの馬上
あくつ
馬居
初は是馬
の巧い



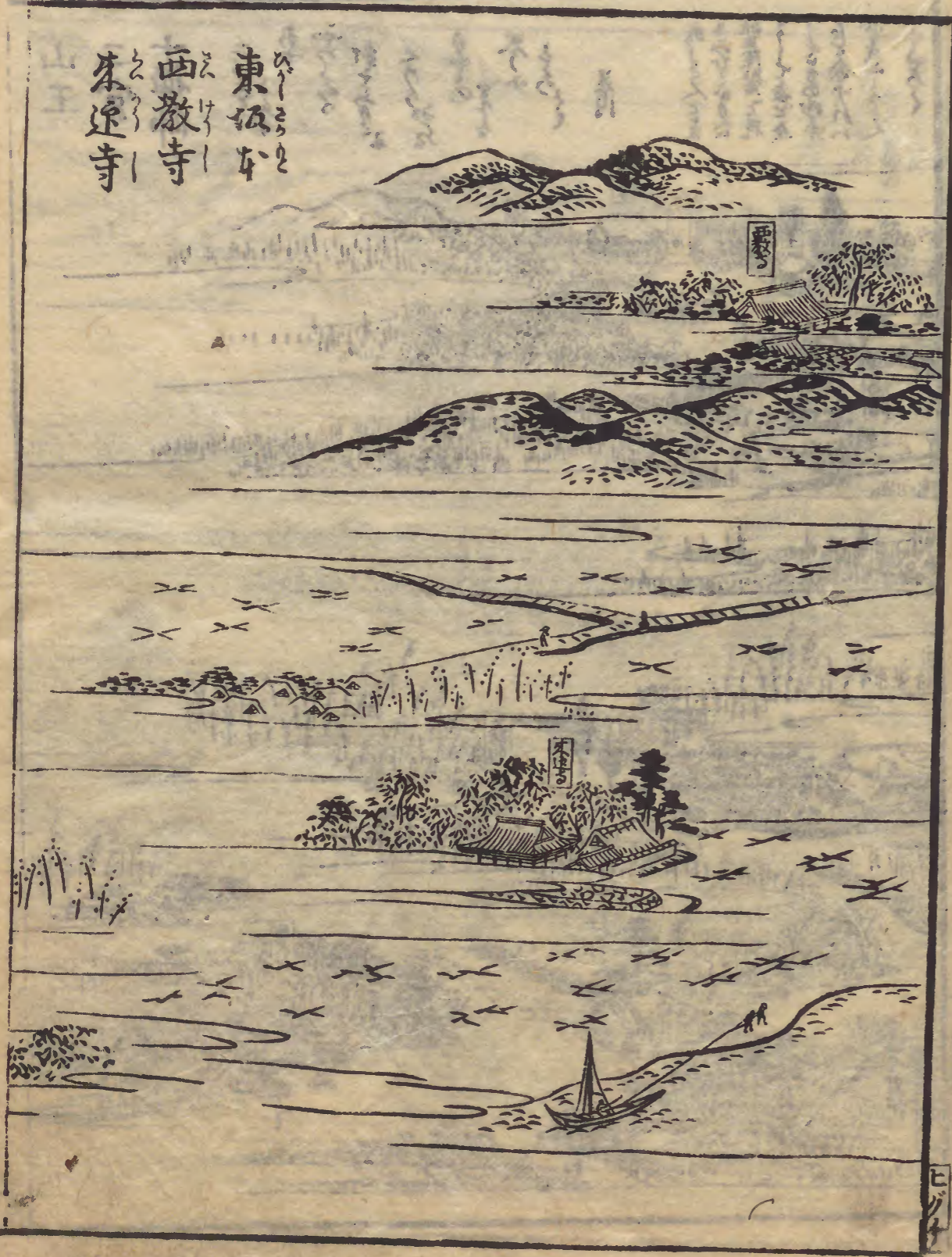
江崎中徳



山王祭
唐寄
神供



東坂本
西教寺
朱達寺



蟠龍ふゆる四時蒼々やふる君子の操
 庸とて湖沼の朝日ゆけら松の葉あつたつを
 秋あつたる色は海へまの霞あつたる
 凍したる悠々たる波の若琴の音初あつた
 曙みかいた松の梢あつたるをふ葉を
 實と嚼へを長生は得る脂へ地中沈く
 貞丁固が爰始皇へ五太夫封ト玄
 高砂曾根武隈の名松あつたるを
 とのかつたはま樹の落ふやぢりふと
 めでぬふたたえりみわあつたるん

龍上 孤松 翠凌雲 心本明 餘根 野厚地
 貞質 指高天 弱枝 興高 艸茂 葉同 柱榮
 孫楚 高貞 節隱居 脱笠 輕

内裏清涼殿紙形
 志の浦や松のあつたるの吹くやとて流をく氷の水のみ

第九和歌集
 中臣朝臣



山王
 二宮
 十禅師



山王
 二宮
 十禅師

山王
 二宮
 十禅師



日吉山王
大宮
聖真子
客人宮
八王子
三ノ宮



本地堂 本尊河津陀佛慈悲大作
の化洛東直如堂の本尊

同他同 橘樹 二枚神若小あり
神の紋と表と

揚社 聖女祠に神ハ若樂ハ
信勢一龍殿 氣比祠

客人官 延暦子のみ小あり
向山崎神と称ス

祭神伊并諾尊 本地十一面觀
北陸の高峯より山小未現
客人官と云

影向石 延暦元年六月十八日
半二尺餘に山推現

揚社 小禪師祠 延暦二年鎮座
祭神天瓊と持尊 本地
地蔵菩薩

十禪師官 二宮は小あり
延暦二年鎮座

夢妙幢石 二宮橋門の
轍善天と云

揚社 岩隴祠 惡王子祠
山末祠下八王子

船石 二宮のお林の中
小あり下の

明星水 下八王子の
林中小あり

八王子宮 崇神天皇
即位元年

祭神國使植尊 龍
鎮座

二宮 八王子山
小あり延暦二年

祭神惶根尊 本地
三貴女良嶽

揚社 美津若
八王子山小あり
神

中七社 牛師子
大行半 早尾 氣比

下七社 小禪師
惡王子 新行半 岩澤

法橋惟舟
二清法師
富士の若

立南
人の若
花さうり

貞室
清の月
おの月

正式
おの若
夜の

香の若
おの若
おの若

梅盛
おの若
おの若

女ま
おの若
おの若

草和
おの若
おの若

常春
おの若
おの若

之噴
おの若
おの若

芭蕉翁
おの若
おの若

和及法師
おの若
おの若

信徳
おの若
おの若

秋風
おの若
おの若

素堂
おの若
おの若

如泉
おの若
おの若

其角
おの若
おの若

一法
おの若
おの若

飛節
おの若
おの若

女若
おの若
おの若

都水
おの若
おの若

志志
おの若
おの若

芭蕉翁
おの若
おの若

如泉
おの若
おの若

○巴上山王二十一社あり本比ハ又素戔
 尊命神託ふよりハ高麗使
 送情の贈送ふよりハ高麗使
 神道ニ兼取一の義山家ふよりハ
 高麗使

○大権現 淨宮 眞葛原の
 上ふあり

○瀨佛堂 淨宮の中段ふあり
 本尊兼師必末

○金鼓 寛永三年 丙寅十二月と鶴と
 銘文畧に

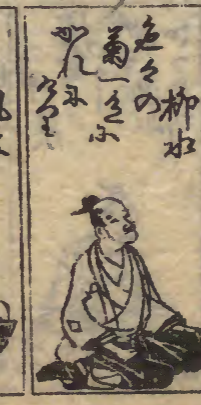
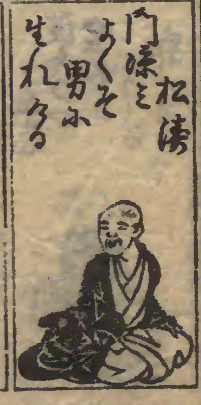
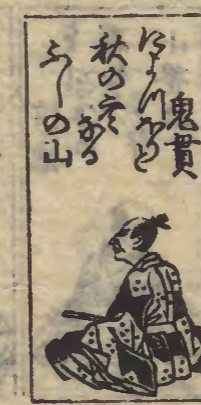
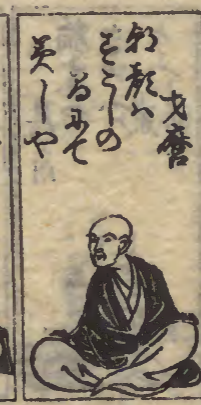
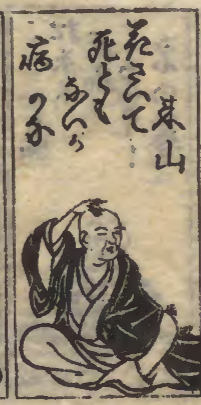
○極武天皇御廟 眞葛原の
 東ふあり

○慈眼大師廟 南光勝と台巖
 戒壇堂の傍ふあり

後古 聖真子宮ふよりありけり
 やつらる光へてありけり

後拾 客人の社ふよりありけり
 一の社海おほく山裾今もありけり

新千 客人の社ふよりありけり
 かくもふありけり



後古 聖真子宮ふよりありけり
 やつらる光へてありけり
 一の社の白紙や君乃る里
 後拾 客人の社ふよりありけり
 一の社海おほく山裾今もありけり
 新千 客人の社ふよりありけり
 かくもふありけり

後法 聖真子宮ふよりありけり
 やつらる光へてありけり
 一の社の白紙や君乃る里
 後拾 客人の社ふよりありけり
 一の社海おほく山裾今もありけり
 新千 客人の社ふよりありけり
 かくもふありけり

又富社山王七の淨存一社の淨神巍然中て鎮座海ま中も
 大宮二宮三宮の嶺小社代より天降る六合の本柱

天子奉命の道場朝歌活伏の神威平天下の淨護あり君乃る里
 母後より湖小止觀とた一後の歳より家より一念三千の機と取一陽五

向ひ後小せむけ社頭森とらと心のとめとけりけり
 神祠くのたを備ひ他小異ありて一社玲瓏より實神秀の氣は

あつまる新淡海一州の虛窟に一夏より回峯の山傍松笠とまおびてや
 くとのらり大廻の阿闍梨の洛中の神社やも巡おしてゆきくの人を

小結縁一毎小多くの道洛の昔より一車尊くありけり
 おはけり神代より人のあはれみは清淨ありて正直ととけりけり

を後くの罪外か一地祇の末より一子界裡みか和光の塵と同じ
 園小を備より因茲神と現下佛と現下子界裡みか和光の塵と同じ

園小を備より因茲神と現下佛と現下子界裡みか和光の塵と同じ
 園小を備より因茲神と現下佛と現下子界裡みか和光の塵と同じ

两部習合しつゝ亦尊しむりより本比を併しと密跡と神とを
浮屠氏のあひ願ひ本比を併しと密跡と神とを併し我神國の本柱
の初まの験めり登り

日吉神詠告傳教大師

羅山子神社考出

波母耶麻夜於比登布比登茂奈志

阿良之毛左牟志登布比登茂奈志

あつちやちの子弟此比小松おひん末まてさうゆいしは

日吉社同社あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

あつちの子弟まてさうゆいしは

四ツ屋若宮 下坂本四ツ屋所あり

登町若宮 下坂本登町所あり

真成宮 下坂本真成所あり

比敷辻 下坂本の比敷

石占井 上坂本岩神所あり

大倉居 本比馬場先あり

妙見祠 生原寺の後あり

三津百枝祠 八条の上あり

和産和行塚 馬場先

大政所宿院 馬場より東あり

初表 馬場より西あり

南若宮 社同所あり

同社 社同所あり

磯成宮 日富寺町あり

若宮 比敷辻あり

同祠 石占井の傍あり

生原寺 馬場の山側あり

大將軍祠 生原寺の上あり

小五月會園 馬場の中あり

歡喜石 馬場先あり

五向 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

神供 馬場先あり

のあ殿(遷幸)七社と合せる

○王子宮 大政所のあふあり

○氣洞 王子宮のあふあり

○彼岸所 大政所のあふあり

○早尾洞 早尾のあふあり

○走井宮 走井のあふあり

○塔下惣社 塔下のあふあり

○八柳 八柳のあふあり

○舟倉 舟倉のあふあり

○滋賀院 滋賀のあふあり

○神路山 神路山のあふあり

○神宮 神宮のあふあり

○輕子宮 輕子のあふあり

○靈石 王子宮のあふあり

○地藏堂 地藏のあふあり

○走井大師堂 走井のあふあり

○猿塚 猿塚のあふあり

七社下七社合々山王廿一社々々小社八十七社本末都て一百八社々

公事根源云日吉系中申日神降洛西松尾の社と同神ありて之云

吹神あり 後朱雀帝長久四年六月八日小舟を先く七社の内小舟を

所寄延久四年四月廿五日小舟を先く日吉社傳成考るる白鳳三年

天智天皇御位二年之社傳成 上巳日小津宮八柳浦小山王神ありて之云

湖上二艘の渾舟ありて人田中恒世を人天晴光といふ其時山王権現

示して曰汝等口は奉寄松の下小舟を先く二人の者若くは公事あり則渾舟が

漕つれく神ありて之云山王恒世對云 渾舟の神ありて之云

渾舟の好むありて之云揚の小舟の中粟飯ありて汚穢ありて神供ふ獻ど

下とて之を覆盆子の葉を盛くおと瓜俣人山王喜悅斜ありて恒世昂

渾舟の棹ありて之云韓崎狐松の下小舟に到る権現又示して曰奈船の神を

粟飯の神供懇の思入海智子孫永く毎葉四月中申日付に松蔭の神を

那とて之を粟飯と神供とて之云終る神路山波止土濃ののこ還き

申入是より神系小恒例とて之云古實とて之云先ッ申のお末乃日み

八王子之宮二社の神典と八王子の殿より為さぬ神典昇殿十人宙
あくとけた坂河原趨き上る勢ひ猛りて死生公辨にあらんと神典落し
といふやれり大政所二宮十禪師八王子之宮の四ツの神典を遷し西乃
初ふ系師より神供と献る晩小入く獅子翁田樂あり初更の辰と相圖
ありて四社の神典の轅と一夜小落しつれを一夜小あ後と奉りて走り
あはれ又官宮落しといふ氣祠のあみくあ後の勝負と極り大宮を殿
小入る申の當日少山門の大衆へ榎榎輔に罹り坂本の衆徒公人と
甲冑公獲ひて社頭へ引烈に其時大猛威と着ひ神式お人の非礼に
礼を案ふまれば官幣の勅使来典の遺風とある榎榎のあみく獅子
翁田樂あり神々々神主代の兎恒世孝子鬼今餓子へ束帯みく大津
馬場村より出る七社の神典へ申の初ふ神々の惣合より小趨き奉り夫の
めし御石を居みくあ後の勝負と極む神典へあはれ飛ぶみく小走り
八ッ柳の溪小到る諸人あらと見んとく榎榎と板と田圃の畔と走り又腰

刀とつげ飯前飯權と走りあり木の葉に風小誘りて七社の神典
ハッ柳より系船ありて幸寄御旅所小到りあみく値例の神供と献る
祭式畢しと又漕戻し比敷のの宮の溪へ着落しゆて奉社(還きか)
なるあらとあみんとく遠近の貴賤馬場小群集と茶店も多く英と及く休
所と設けある小店食物と種々と賈し酒賣餅賣粘賣引置落し止
裏入过的糸れり烈の次第に郡系の中と賣ありて旅舎の派人の座後乃
狭き恨と笠と脱ぎ着る者へ紅雲園の指分業傳云山王系へ故實ありとふ
多くと押二月中申日より始り近郷近在七浦みかひ糸糸小頼り読ふ
七年観されとく見はるやう年茶車あり久遠小及るひひり
加程の古實今の世を羨むる祭祀稀なれば土遠境の人も生涯一な
観ぞんをのぶくはみかまれ治永安氏の行事なり
千載の
かあひ日若の教の真の葉は戸をもちくさうりやら
の終ると小賀歳と日若とあひを同く卯月の神とともる
全

拾五

長圖



山王宗の御月中申日
 母と坂本法師の二人を
 古奥の乱馬場通の
 御親観へて
 圖その年
 然るに
 其僅十
 一とあり

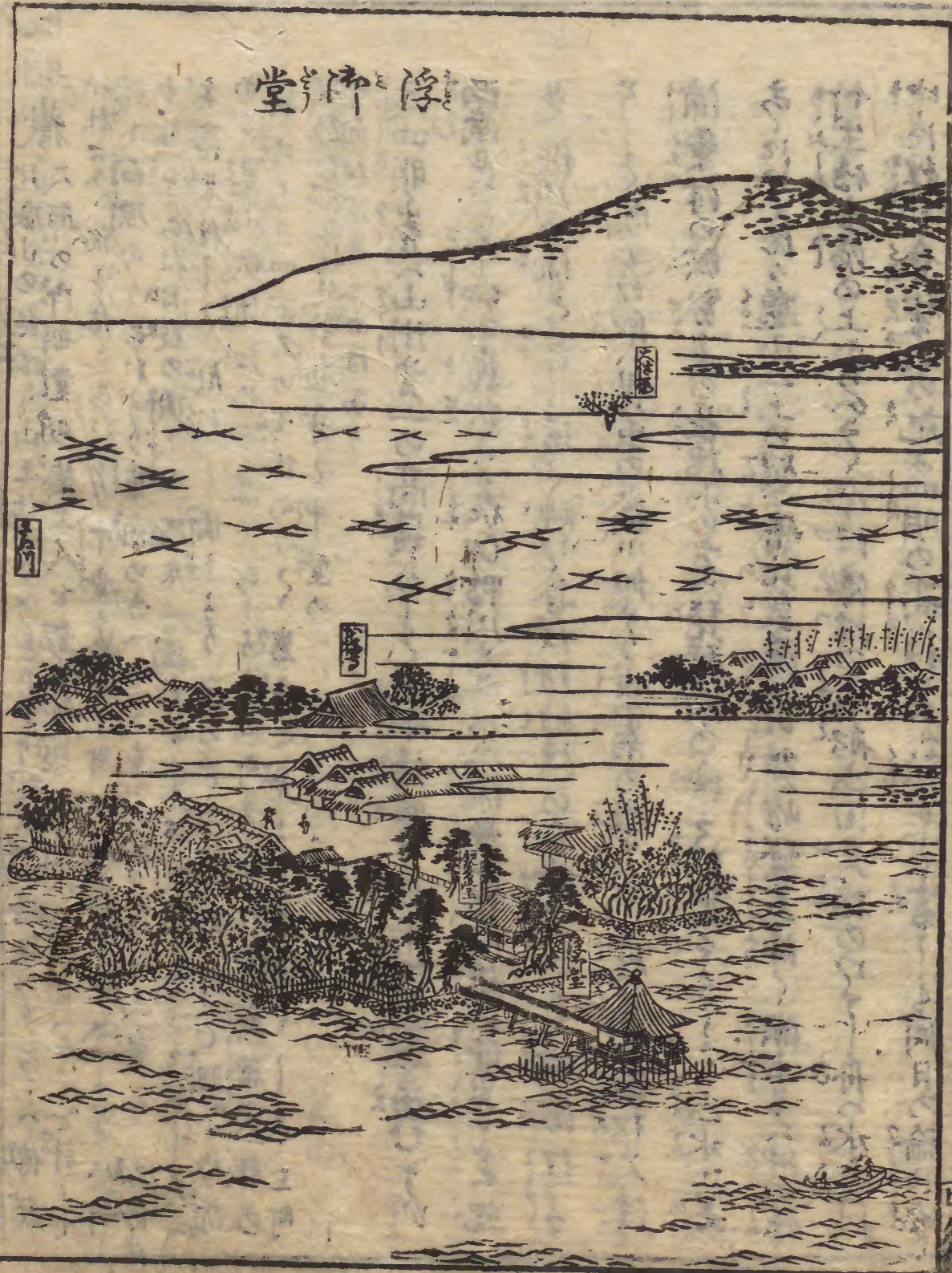




四明嶽上跡孔龍
 丹鳳城の瑞霧濃
 不覺棠然の史古
 青天濯出五美春
 秋 荻 藤 萬



天火



渭之世俗鬼門柱といひ良嶽といふあり

戒光山西教寺

坂中ノ窪小あり天台律宗の本寺

本尊阿弥陀佛

大六世道徳傳阿彌陀佛元之慈恵大師
中興真盛上人謚号圓戒國師といふ

紫雲山來迎寺

下坂北比叡村小あり天台律宗の本寺

本尊弥陀釋迦藥師三尊

同基惠心傍都他岡山堂小あり

苗麻明神

苗麻村小あり延喜式云那波加神社

祭神天太玉命

七十年小造立苗麻の神主小龍宣の末管部傳記あり

堅田浦

志賀郡小あり大津より二里
領主堀田茂光の湖水の船

新十

ふじのふらふらの浦はゆたふらふらとての浦乃あまれけ繩

祝部成賢

新拾

まのふらふらの浦はゆたふらふらとての浦乃あまれけ繩

田光院入道
赤大政大臣

新陸吉

さ波やうとむとて成ふらうのふらふらとてのあまれけ繩

道院法師

新拾

終ふえうた名やたんとて堅田の浦乃あまれけ繩

宗成

いふいふもつこつとて樹はとるたわの中のみ章

むらうり波海の名春小源糸糸とてありされは家一園に領
てし付家来小錦織源糸糸とてあり者漁者小同領其領とて乃
至つとてあり官家小あり國是其支配とて與の名小あり

堅田 落馬 鴻馬幾行更不孤 晚風帶月落東湖
相國寺林長老 襄沙背水堅田浦猶見孔明八陣圖

近衛関白時照公 若らまててちちちちててまひささるのり

志賀郡堅田小あり宗吉強宗海白の満月寺と号次

御堂

左右小化佛一千餘と安次

本尊阿弥陀佛

俱小惠心傍都の他 観音堂 聖徳太子所創の観音安次

弘法大師の他地蔵等安次 一条院浄宇後作の信

傍都の同基聖尊の車堂より 湖上御堂

光明縁云云 信傍都後川の山岳より 湖上御堂

腹小籠く 尊子小一子解と安次 具難殺生供養のる小堂

再興に及ぶ 其疎みなり 容殿小あり 七月十八日

勾當内侍古蹟

今堅田の田中ノ堀あり 毎来九月八日夜入る 京車平

左中將義貞ふむれお東のあの中

つらねのふもよとる新あしとよあて雲井の月やまゆん
海くつろくうれも若きうりて義貞ふりりたる
山に花散る左中將坂をより小園へ移りし時
内侍とて今堅田といふ所を治りて其は義貞
御入とすく都へ移りて其は義貞御入とす
岩の生れ入るる都へ移りて其は義貞御入とす

大伴櫻

真聖入江

堅田の西方五六町山原田圃の中
大伴黒主の古のうらみづら
堅田の山あり真聖村真聖川あり

鶉ふくはの入りけ溪風ふお花波より秋のゆへれ
吹おるに知の嵐や寒のうまの浦人衣う川あり

夜半ふ吹溪風をよまの浦け入のふとら今を唱ある
去世の浦上舟とたつる若き入の波小月をよけ

冬うれのお花とてあきらむ入にも氷まの浦風
乱草のむむをれ風の吹とらうみ秋とよなるまの浦浪

比良

あまちまの溪ふ駒をりくひり乃る根れをよめ
大はより六里北比良南比良の二村比良川あり
高嶺に若くは系所より舞ふ足ゆる古跡多し比良神社と

横吹をの山風吹くふ花ありあり志のうら
う波やをの山風のれ山嵐を海のおとが

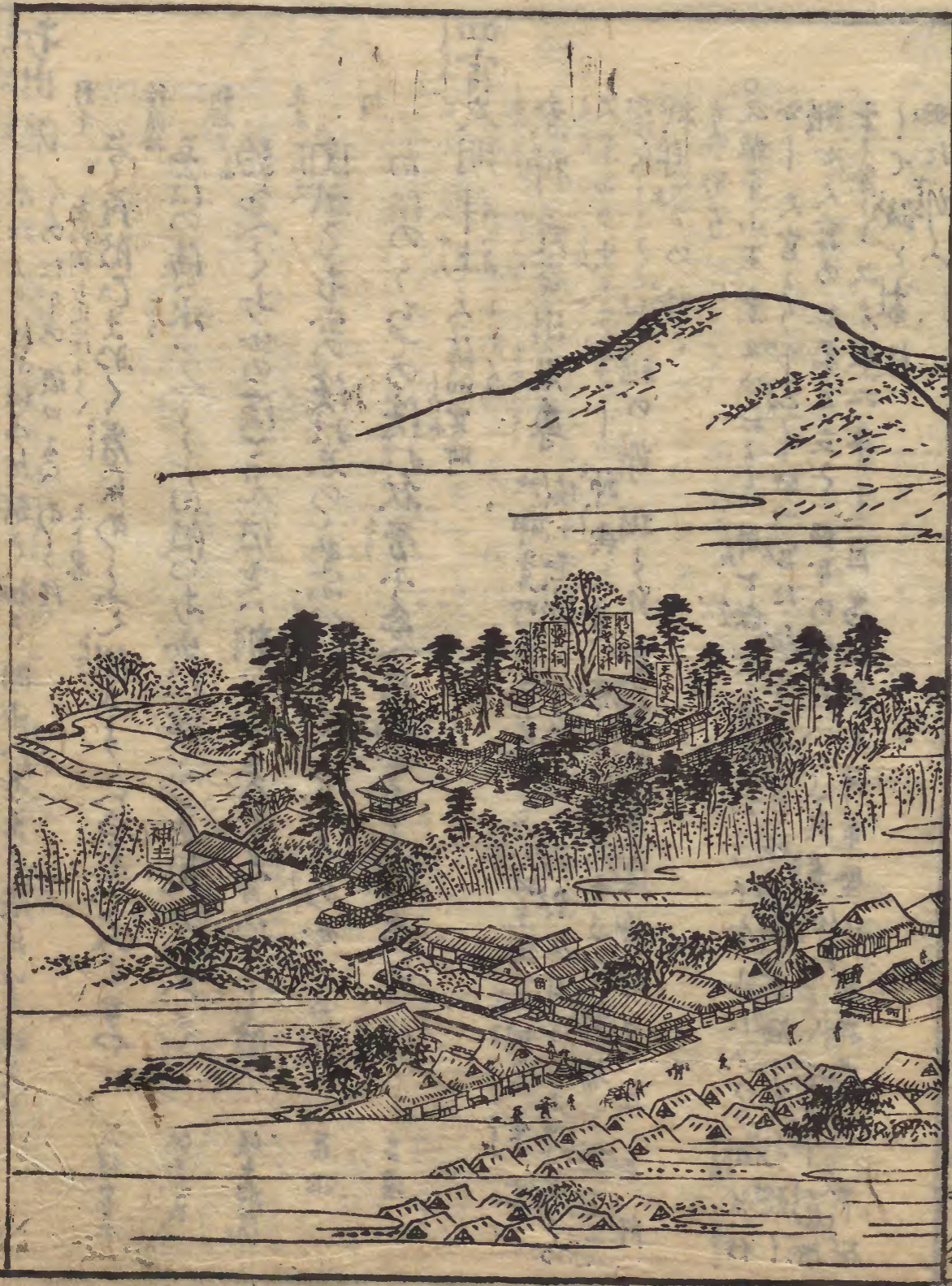
花さそふひの山風吹くうらり舟のゆをゆるま
さかみやまのうら風吹くひのうらぬま夜ふる

雲をくひひの山風月をく氷をよめるまの浦あり
文りて山風吹くう波のひけ浸り子鳥啼く

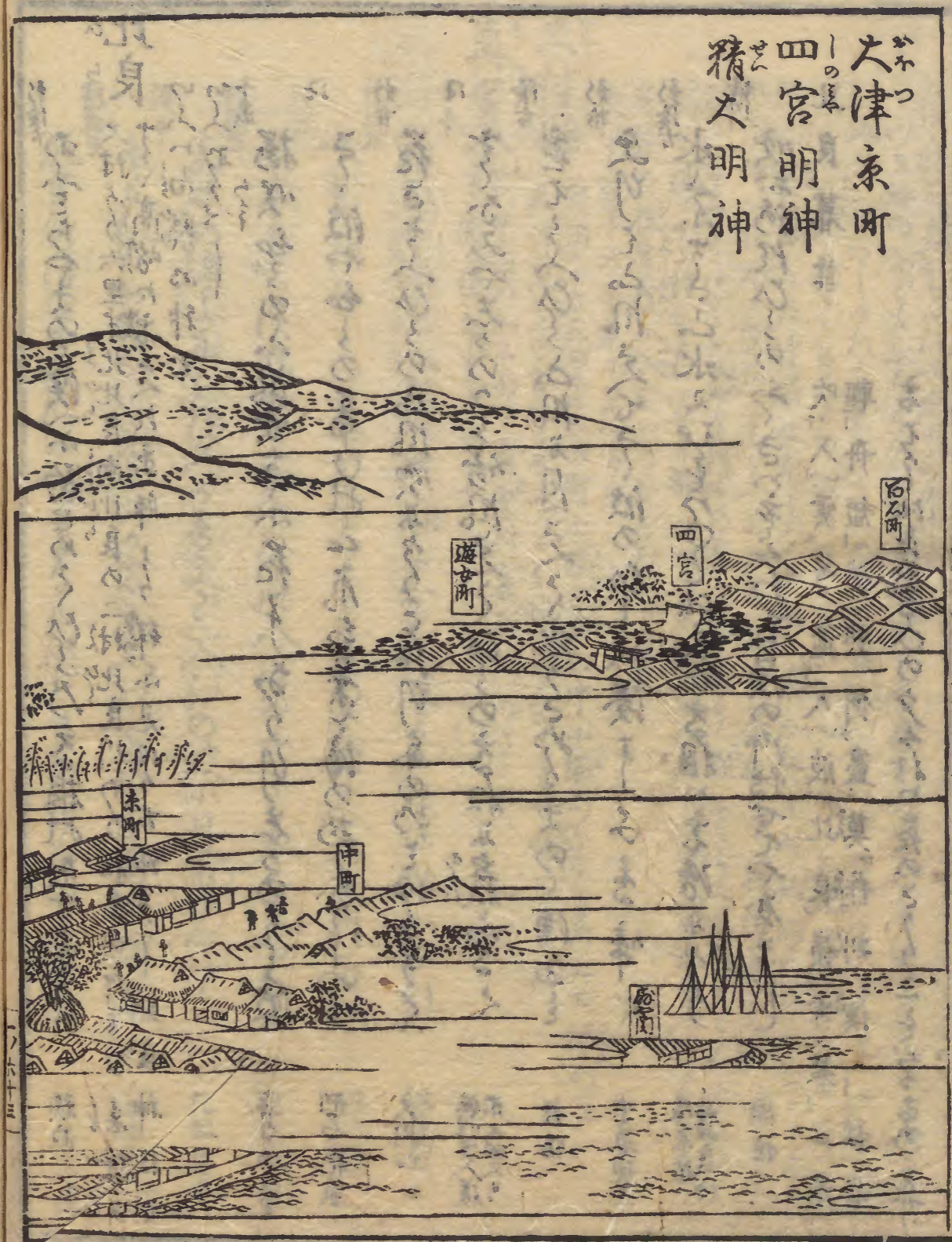
氷ふすこ山氷むむとて比良の雪根の雪冷ふり
吹おるにひのうきをよめて日比の浦結をやま

比良暮雪

吹入雲号飛入波比良嶺雪暮一様看
軽舟短棹興何盡莫作判溪一様看
若くは比良の雪の夕をれ花のさうりふとらるる

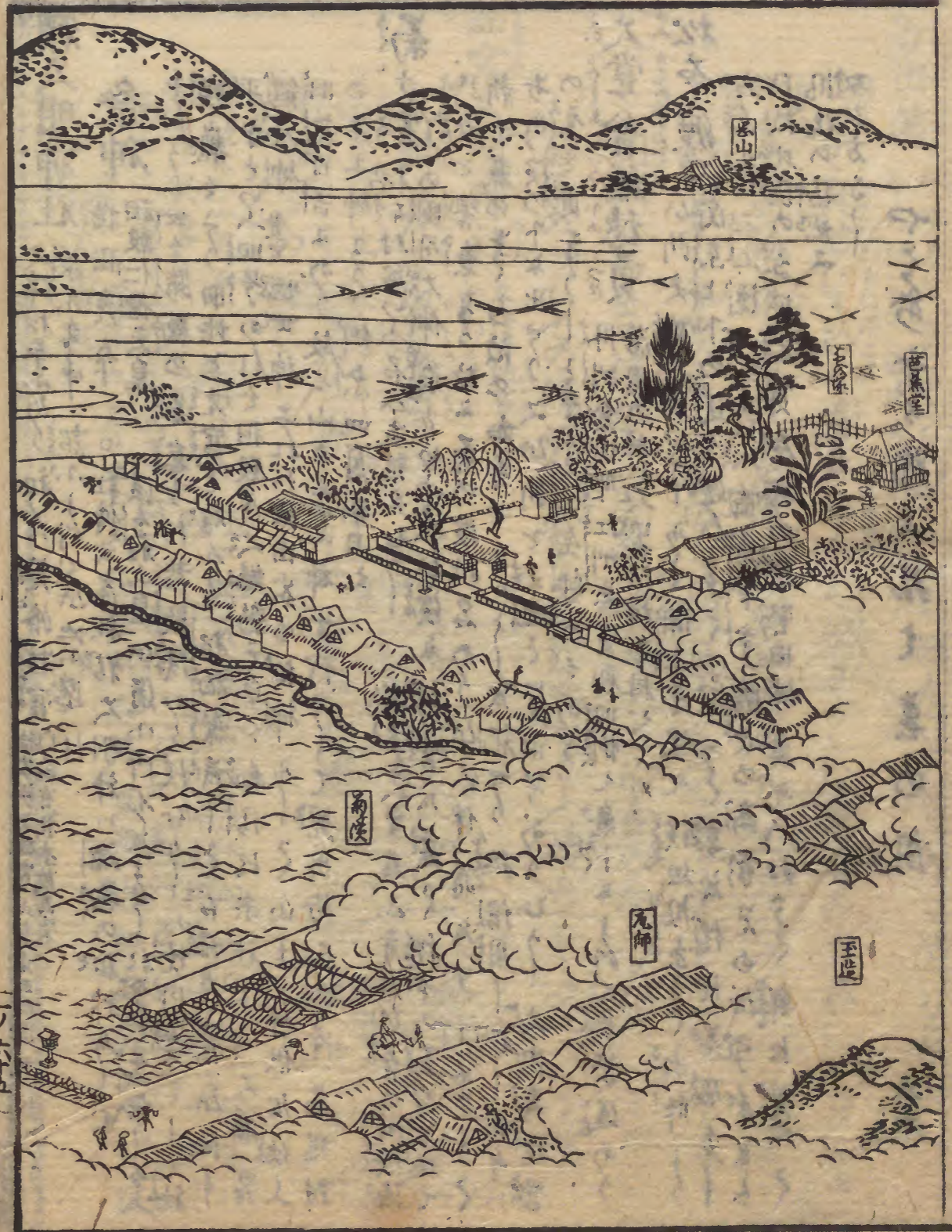
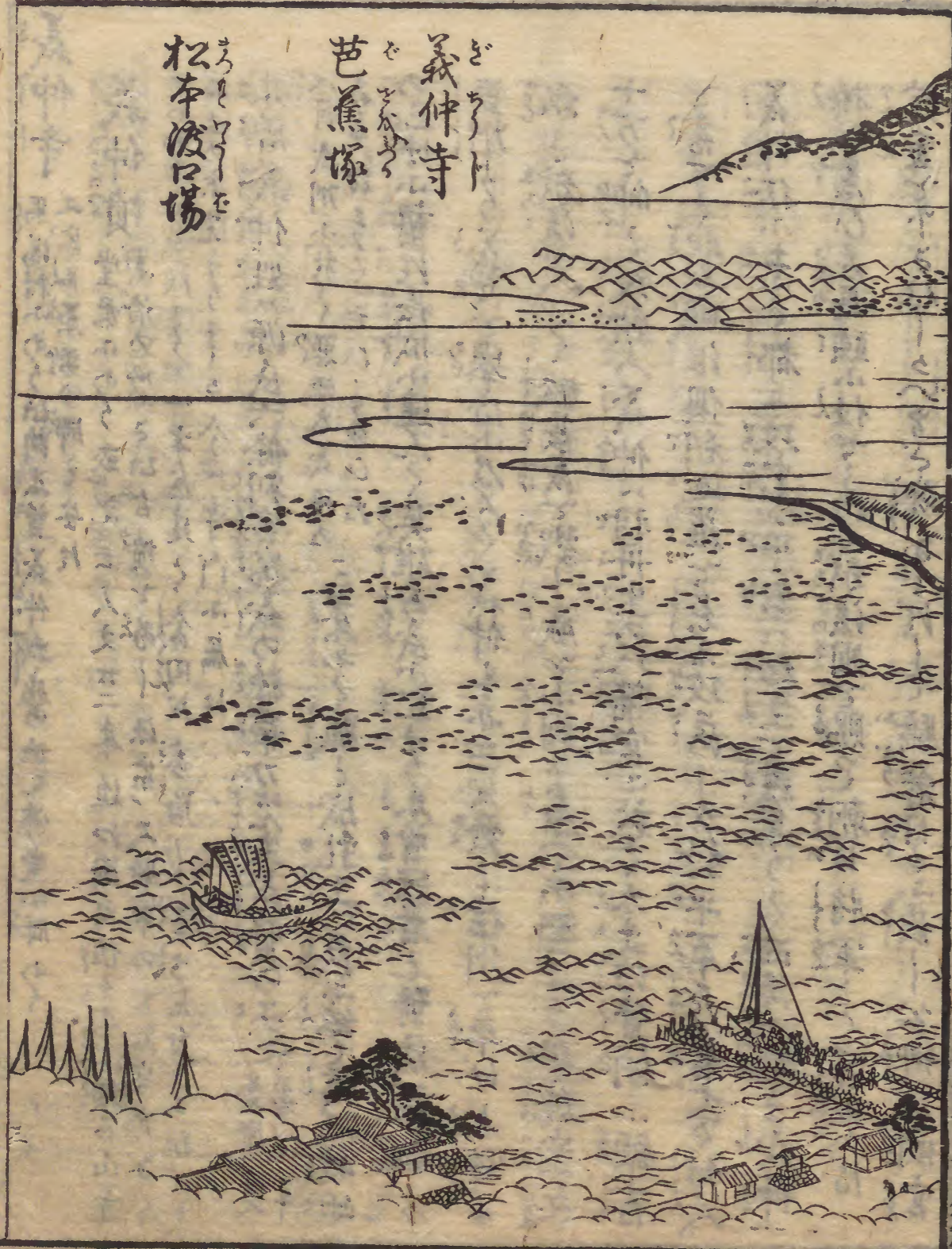


大津系所
 四宮明神
 猪大明神



松本渡口場

義仲寺
芭蕉塚



義仲寺

馬場村ありは所本曾義仲死の地人佛堂小牌あり

義仲墳

堂前小あり或記云天文廿二年近江國司依々本高頼石山寺

の心中小誓に長成小違んを英雄秀武小起たり本曾冠者と號次頼朝

八月武州小放り悪源太義平の二策少く狐と成乳主の家小依て信州岐岨

豆州より義兵と舉ゆ小及んを義仲も亦兵を發し信州と平け上野

と書せり取ら砥浪俱利迦羅と名を攻落し夕に平軍死者七方人

義仲猶小多く都に攻まると平家小幼主と護りて西海小趨る義仲

院宣と下されしいささ案ありて驕奢日々小長ト公卿小関官

一土民と流毒し上皇と逐内裏に焚暴逆多かりしを鎌倉より

軍敗と勢田と堅し兼平小出漢とりの疎去を殺し又殺し一が逐小

主従二騎小討さるれ粟村原の源田小馬と未入控縁とと後小石田小太布

宿多夫小中く殺死し中平家物倍小見たり

芭蕉翁墳 義仲寺境内義仲塚小隣るに茅室にとき瓜蒞の本條と安次

枯尾花出辭世 旅子 病とゆ免る 枯尾花のけ色付

西園の脚た義仲のふとく又坂小下り 船場中堂をたをが家小後

年五十一門人其角丈州正秀去来と初十紫井 船波より 藤小

道年寶曆十年のに系作 藤小五升 藤小四方の藤士小纏く

室子の血脈の葉 藤小の藤とたるくおれた者しり四筋たかく

葉津支庫とて人 近幸は真蹟集初板しと世にり入

あたる瓜笠にかく身や枯尾花

其角

其角

其角

其角

其角

其角

其角

其角

其角

志賀の七湖の水せれかゝり

素堂

芭蕉堂の澤々無名庵と云ふ所の蕉翁東西ゆきの時い居ふ止宿し
たる事多し一應保の尾州を裡居石山の奥國がふの住居の
古跡ありし一権の末とそ様をふしりし住居と頼とら
るるなり
○志賀の二町計南小園山と云ふあり蕉翁の上足丈州と云ふに
仲の志賀と号し新羅地を龍園と改む丈州へ原尾州と云ふの家
の志賀と号し出家し神宗と成り龍園を専らとす詩と歌し龍園に
の志賀と号し出家し神宗と成り龍園を専らとす詩と歌し龍園に

大系や條のゆく者入膠月

丈州

赤米と飯のふけし根芽也

全

脂所

城あり本田彦領すは門より五ヶ左あり城下の町都て北に町
西の口龍所と云ふ宮ノ方町の石八人龍王の廟あり八の宮といふ
系一五月八日之在泉水のあり風系の龍一龍の移居と云ふ
龍の又八龍神の社あり中八人龍所の社あり左の方乃乃
陽炎の清水音孫君と云ふ田畑の祠あり中庄の祠頭丈王橋
宮町と云ふ宮八幡宮新羅明神の社あり又別保の村中より
棲のいし園の住居龍園と云ふ園寺と云ふ
脂所へ原粟津也陪脂淡あり山王系小神供不献と云ふ由縁あり

例系あ七日の向い所の頭人の家小後の紋れ幕と張りての者あり

湖水交易の船着みかまは征して其るおる應ト寶鏡と云う神供料

とらあは十分一といは起て原ふむうは湖をふ二人乃総甲あり

名原辺江粟津佐森陽縮といふ今ま一人日吉辺江佐粟津恒世と云

ありしが鎌倉頼朝卿の台令うて辺に園二十四五所へのあ人の支配と

九十九浦の初穂十か一辺に佐粟津恒世が支配といふ

又脂所小陽炎の法ありは所に居住す一系平の龍曲に繫はの葉や
のげろの石山寺と云ふ人もあまの申の系日あり縛船二艘小橋は云

らひ粟飯の神供と筋を船中をて英を敷くて辰の刻より湖上を漕出

若樂瓜奏く城を瓜めぐる船の中より後面の被毛衣を着き子

七人ありせれより磁つてふ大は漕り領主より一管固紀も俱漕

連を陸地往來の者ふ後人かど笠を被ふとあれと親まは虚鏡と云

却に衛平の刻小庵傳不到と申ふ後く神樂とまの志賀の神供といふ

事考の下に云へり

栗津松原

玄坤のりふ
つれづれに
波ののりふ
みまふ
遊園の時照公



一六十八



栗津暗嵐
嵐度東洋春典
長次霞吹雨似
相狂山花片々
一芦波湖上閑
鷗夢也香
相國寺林長老

相國寺

一六十八

本曾四天王
 隨一之軍將
 今并四郎兼正
 栗澤原血戰



二ノ六十九

春泉齋

陪膳賓 兼盛

とてある時わ...かあをあるありの後の後日つさ

栗津野 又栗津小野又栗津野の栗の古跡多し人は松をより勢田橋

あそはの...のつもの...を立を川に駒をいさる

あそはの...のつもの...を立を川に駒をいさる

あそはの...のつもの...を立を川に駒をいさる

あそはの...のつもの...を立を川に駒をいさる

あそはの...のつもの...を立を川に駒をいさる

栗津杜 栗津の清水の陽敷の清水といふ

栗津里 栗津の清水の陽敷の清水といふ

栗津野 栗津の清水の陽敷の清水といふ

栗津野 栗津の清水の陽敷の清水といふ

栗津野 栗津の清水の陽敷の清水といふ

栗津野 栗津の清水の陽敷の清水といふ

兼平 兼平は松原よりあふ入津三町田圃の中石塔あり

東鑑曰 壽永三年正月廿一日蒲冠者範頼源九郎義經

也今武衛御使平多義經入自宇治路木

曾以三郎範頼自勢多義經入自宇治路木

等於彼河越道難防皆以敗北蒲冠者源九郎

相具河越道難防皆以敗北蒲冠者源九郎

即高綱畠山次郎重頼同小太郎重房佐々木源

次景季等馳六條殿奉警衛仙洞此間一

栗津邊令相模國住人石田次郎誅戮義仲兼

平其外鑄織判官等者逐電云

今井四郎兼平 姓兼平 中原信則の養兼遠が子之義仲信則小流落の時兼遠

接育して忠肝義膽と専ら義仲逆小義兵と養都小入兼平も從軍

洛入く攻戦を不義仲の陣敗は勢田の橋と圍兼平も死生と知らんが為

あに兼平も亦味方の存亡とぞんぞ勢田の兼平もあま主君も遇ひ

且喜ひ且哭く散兵が殺屠秋入半巖上の電のめし終小敗走して義仲も

我死しゆを兼平も防我の術盡く太刀の切先を口合と馬より逆み墮く
自戮に禮記小曰人の長くして其身を殺して忠死を流し左傳も忠を
人の望んとぞ宋の文天祥も忠死して顔色を憂せし韓成の身も殺し
て忠を厲む逆み祠を奉ふも建ふも其忠死を賞せし祠廟に
建く後世英名を賞せざる宋豈遺恨ありとぞ

東海道名所圖會卷之一 甲

